

7. 水源地域動態

7.1 評価の進め方

7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は大きく2つの流れの評価を行う。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理し、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等についての評価を行う。

もう一つの流れとして、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行うものである。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行う。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討する。

7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの流れにより、評価を行い、とりまとめることとする。検討手順を図 7.1.2-1 に示す。

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握する。

(2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が直接地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握する。周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等は、ダムの影響とまでは言えないまでも関連がありそうな事項を抽出する。これらのまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握する。

(3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」等も参考にしながら、地域におけるダムの位置づけについて考察を行う。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年程度のダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価する。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理を行い、加えて、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」により新たに整備された施設等についても整理する。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めることとする。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行う。

(5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理する。また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行う。

(6) その他関連事項の整理

水源地域の社会動態に関する既往検討資料、または景観検討資料、施設の維持管理に関する検討資料等、関連する資料があれば整理する。

(7) まとめ

以上より、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理する。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめるものとする。

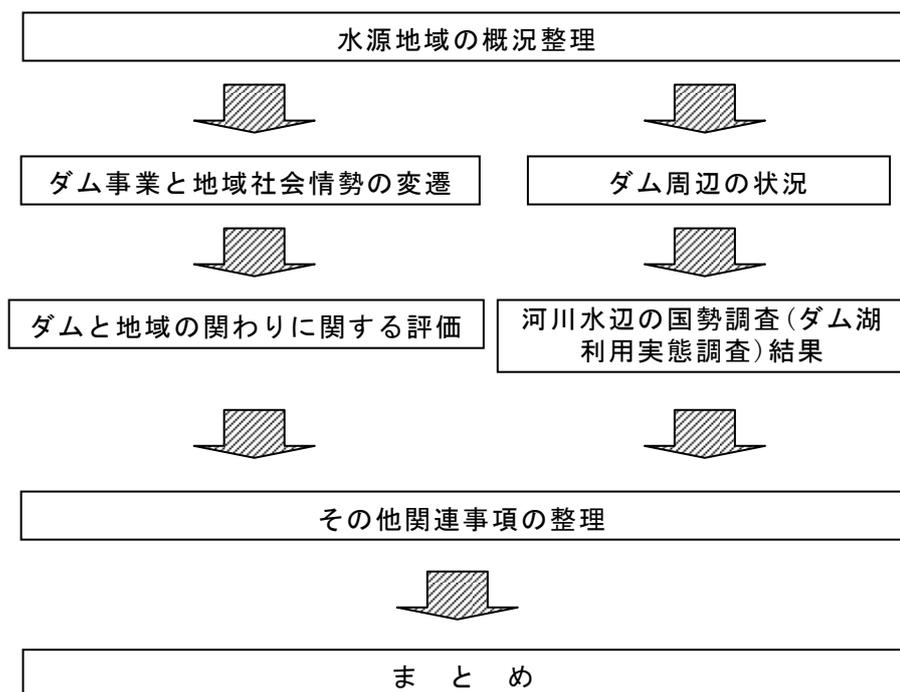


図 7.1.2-1 検討手順

7.1.3 必要資料(参考資料)の収集・整理

ダム周辺の社会情勢、利用、整備状況等に関わる資料等、まとめに必要となる資料について収集し、リストを作成する。収集した資料は「7.8 文献リストの作成」において整理する。

7.2 水源地域の概況

7.2.1 水源地域の概要

(1) 水源地域の概況

日吉ダム及び日吉ダムの水源地域は京都府内に位置している。貯水池周辺は南丹市、上流域の殆どは京都市となっている。

南丹市は平成18年1月1日に園部町、八木町、日吉町、美山町の4町が合併し誕生した。また、京北町は平成17年4月1日に京都市と合併している。

なお、旧自治体では、京都市、旧日吉町、旧八木町、旧京北町の1市3町が水源地域を構成していた。

水源地域を構成する自治体を図7.2.1-1に示す。

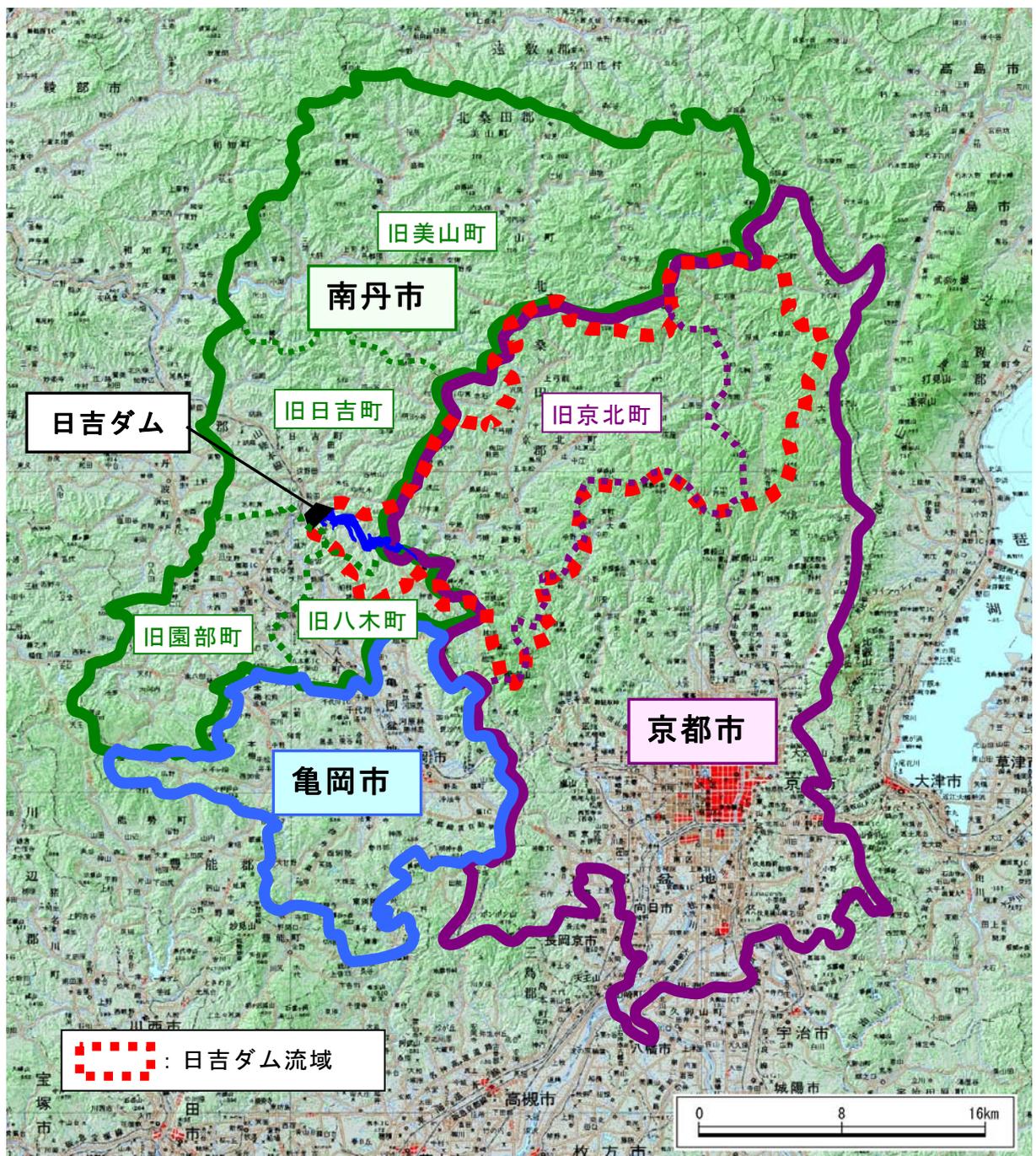


図 7.2.1-1 水源地域を構成する自治体

(2) 人口の推移

日吉ダム水源地域を構成する旧自治体である旧京都市、旧日吉町、旧京北町、旧八木町のうち、流域内の多くを占める3町の人口の推移をみると、昭和40年から平成27年の間にいずれも減少しており、旧日吉町では2,931人、旧京北町では4,025人、旧八木町は3,078人減少し、3町合計で4割程度の減少となった。

人口推移を、表 7.2.1-1 及び図 7.2.1-2 に示す。

表 7.2.1-1 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の人口の推移(単位:人)

町	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
旧日吉町	7,871	7,040	6,684	6,634	6,310	5,862	6,207	6,219	5,951	5,446	4,940
旧京北町	9,152	8,211	7,774	7,312	7,184	7,087	7,080	6,686	6,259	5,633	5,127
旧八木町	10,693	10,551	10,620	10,802	10,624	10,290	9,905	9,391	8,869	8,138	7,615
計	27,716	25,802	25,078	24,748	24,118	23,239	23,192	22,296	21,079	19,217	17,682

【出典：「国勢調査結果」】
 (流域内人口) 【出典：「平成26年度流域環境調査報告書」H27.3、日吉ダム管理所】
 ※平成27年の流域内人口は不明

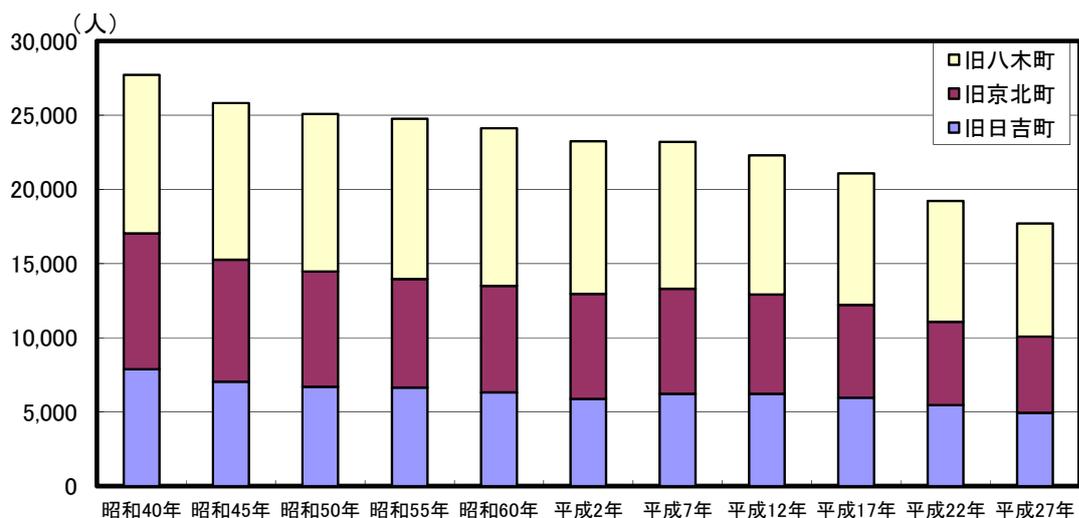


図 7.2.1-2 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の人口の推移

日吉ダム水源地域を構成する主な3町（旧日吉町、旧京北町、旧八木町）の産業別就業人口の推移をみると、基幹産業であった第一次産業は、昭和40年から平成22年までに2割未満に減少している（3町合計値）。第二次産業も平成7年以降減少傾向にある。第三次産業は同程度で推移していたが、平成17年以降減少に転じている。第三次産業の全体に占める割合は増加し続けており、平成22年においては、就業人口の約6割を占めている。

旧自治体の産業別就業人口の推移を、表7.2.1-2及び図7.2.1-3に示す。

表 7.2.1-2 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業者数の推移(単位：人)
【人】

		昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
旧日吉町	第1次産業	2,126	1,875	1,299	948	664	547	573	391	443	377
	第2次産業	689	886	1,033	1,038	1,073	998	1,071	918	795	607
	第3次産業	1,266	1,287	1,307	1,425	1,369	1,304	1,520	1,523	1,621	1,425
旧京北町	第1次産業	2,532	2,249	1,407	1,071	856	651	603	504	435	373
	第2次産業	596	908	1,207	1,183	1,082	1,070	1,007	802	707	566
	第3次産業	1,443	1,451	1,527	1,577	1,634	1,651	1,790	1,774	1,742	1,551
旧八木町	第1次産業	2,538	2,220	1,504	1,155	966	815	681	604	602	477
	第2次産業	1,134	1,391	1,503	1,578	1,597	1,655	1,668	1,393	1,076	867
	第3次産業	2,139	2,343	2,498	2,765	2,677	2,716	2,670	2,555	2,619	2,282
計		14,463	14,610	13,285	12,740	11,918	11,407	11,583	10,464	10,040	8,525

【出典：国勢調査報告(総務省統計局)】

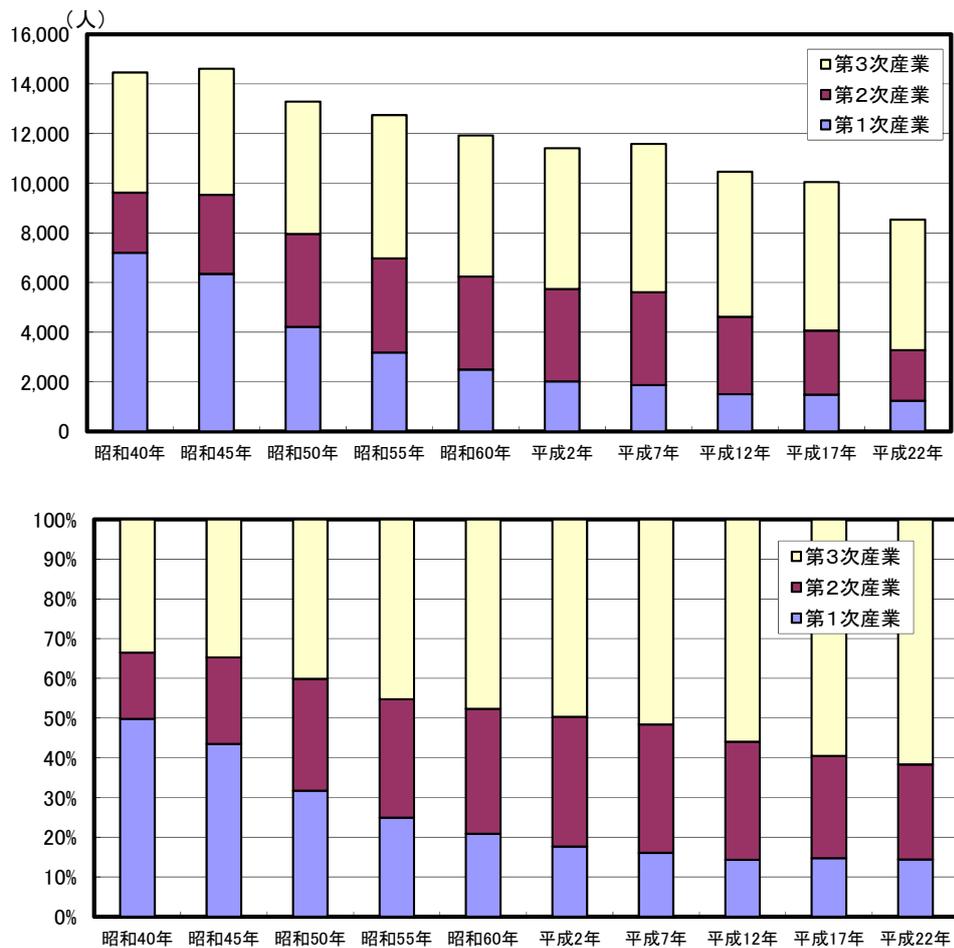


図 7.2.1-3 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業者数と割合の推移

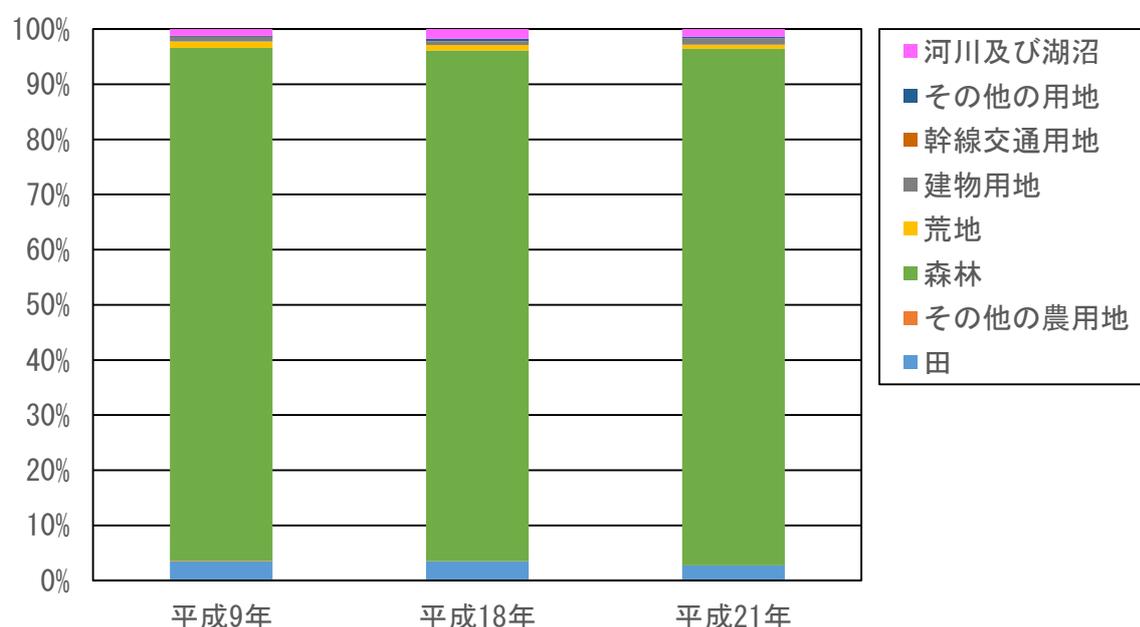
(3) 土地利用と産業

日吉ダム流域内の土地利用の推移をみると、山林が全体の殆どを占めている。

日吉ダム水源地域は、全国でも屈指の林業地となっている。中世より御所への木材を貢納していた禁裏御料地で、京都への木材供給地として栄えてきた地域である。苗木づくりから植林、保育、伐採、搬出に至るまで、長い歴史に裏付けられた知識と技術によって、スギ、ヒノキを中心とする優良な木材を生産している。また「北山杉」で知られる磨丸太の産地としても有名で、工芸品や杉葉染などが特産品となっている。

また、農業では豆類の栽培が盛んで、納豆などの加工食品も特産品に挙げられる。

日吉ダム流域内の土地利用の推移を図 7.2.1-4 に示す。



【出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ】

図 7.2.1-4 流域内の土地利用の推移

7.2.2 ダムの立地特性

(1) ダムへのアクセス

周辺都市からの交通網を、図 7.2.2-1 に示す。

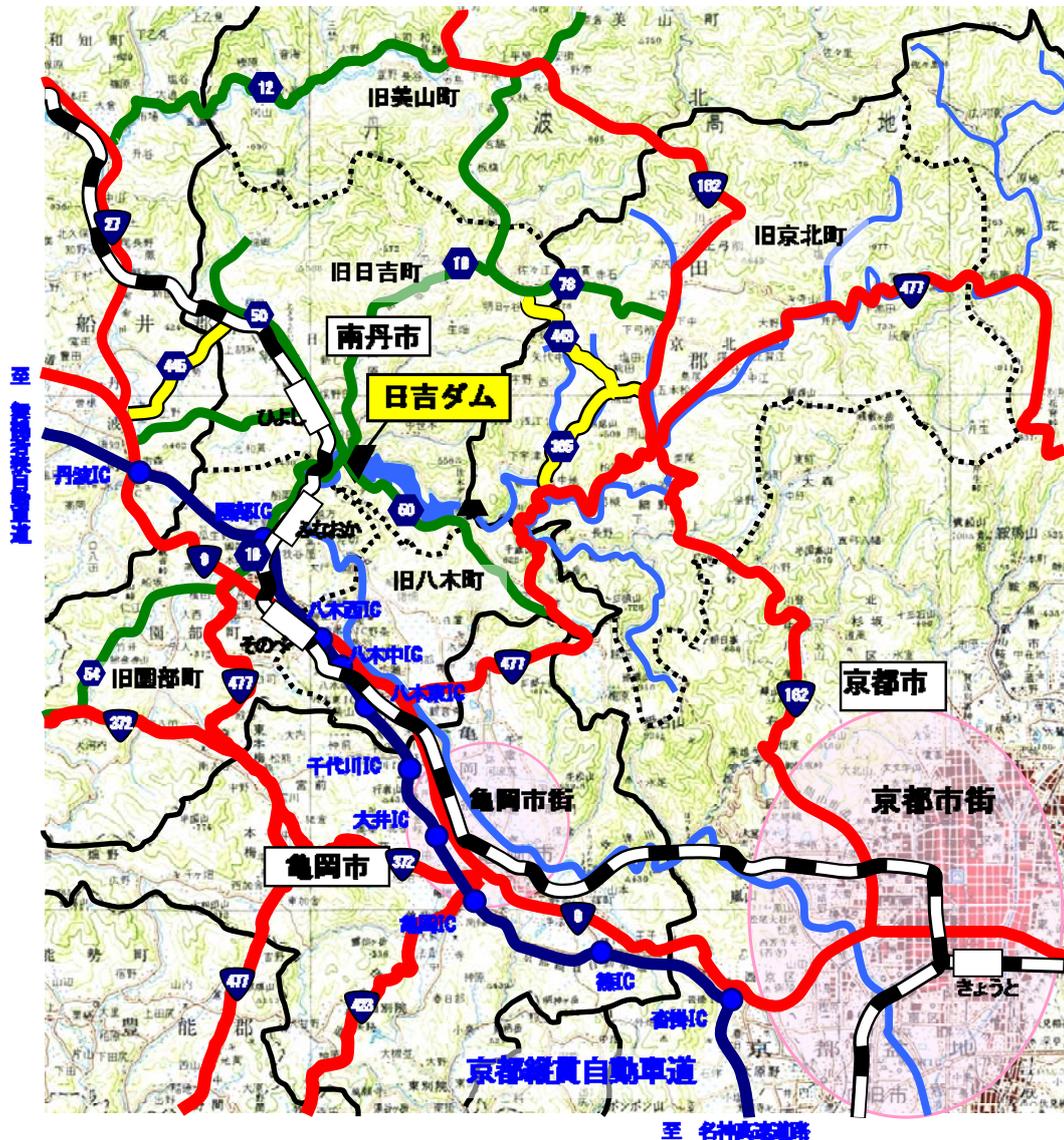


図 7.2.2-1 周辺都市からの交通網

主要幹線道路は京都縦貫自動車道に加え、山陰方面を結ぶ国道9号、若狭方面を結ぶ国道162号、舞鶴方面を結ぶ国道27号、滋賀県と兵庫県川西市を連絡する国道477号等でネットワークが形成されている。特に京都縦貫自動車道については、沓掛IC～大山崎JCT・ICが開通し名神高速道路と直結、丹波IC～京丹波わちICが開通、舞鶴若狭自動車道も全線開通し、更に利便性・アクセス性が高まっている。

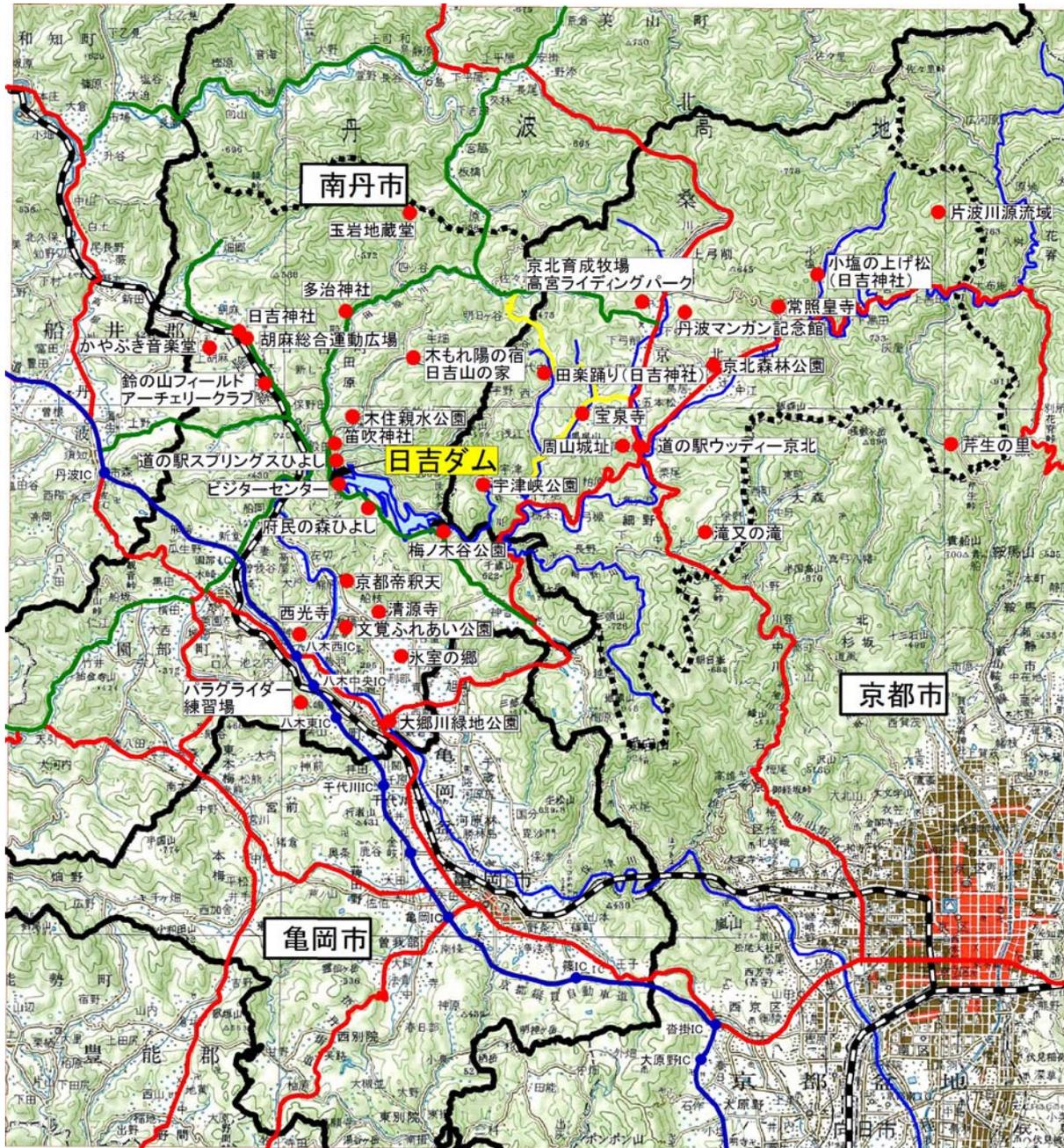
また、鉄道はJR山陰本線の電化開業に続き、平成22年には園部駅までが複線化開業され、利便性が向上している。

【出典：平成13年度 日吉ダム水源地域ビジョン策定業務 報告書 平成14年3月に加筆】

(2) ダム周辺の観光施設等

周辺地域の観光の特徴は、豊かな自然を活用したキャンプ場や野外活動施設が多く、また、京都市に隣接していることから古い神社や寺も見られる。

流域内の主な観光施設等位置図を図 7.2.2-2 に、主な観光施設の概要を表 7.2.2-1 に示す。



【出典：日吉ダム周辺探訪マップ 南丹さんぽ】

図 7.2.2-2 周辺の観光施設等位置図

表 7.2.2-1(1) 周辺地域の主な観光施設の概況

旧町名	観光施設名	概要
旧日吉町	玉岩地藏堂・海老坂峠 	若狭の八百比丘尼が地藏菩薩を背負いこの地で休憩した際に、地藏菩薩が動かなくなりそのまま安置されたと伝えられている。
	多治神社 	毎年5月3日に、五穀豊穰を祈願して行われる「御田」と呼ばれる御田植えまつりが有名である。
	木もれ日の宿 日吉山の家 	研究室や食堂、バーベキューハウス、テニスコート、キャンプ場があり、林に囲まれた小川のある環境は抜群。家族連れや合宿にも最適である。
	日吉神社 	毎年10月に、厄払いと五穀豊穰を祈願して馬駆けが行われる。
	かやぶき音楽堂 	ピアノデュオ連弾で世界的に有名なザイラー夫妻のコンサートホール。
	笛吹神社の大杉	御神木は幹回り6.39m、樹高46mの杉の巨木で、京都府二百選に選ばれている。
旧京北町	常照皇寺 	光厳天皇氣に開山した禅宗の寺。京都府歴史的な自然環境保全地域に指定。天然記念物「九重桜」
	ウッディー京北 	森林・林業と木製品とのふれあい、学びあいの展示館。樹齢600年の「大径木」を展示。
	京北森林公園 	森林用歩道やアスレチックが整備され、バーベキューやキノコ狩り、シイタケの原木栽培等の体験ができる。
	滝又の滝	高さ25mの滝の眺めは壮観で、四季おりおりの風景は格別。
	芹生の里（せりょうのさと）	歌舞伎「菅原伝授手習鑑」の寺子屋で名高い伝説の地。菅原道真の遺児慶能を教育した式部源蔵の屋敷跡がある。
	片波川源流域（伏状台杉）	片波川源流域一帯は、今まで大切に残されてきた西日本屈指の巨大杉群落の森。樹齢千年を越す巨大杉が群生。
	周山城址	周山の西北「城山」に、約400年に明智光秀が山岳城を築いたといわれ、石垣跡が面影を留めている。

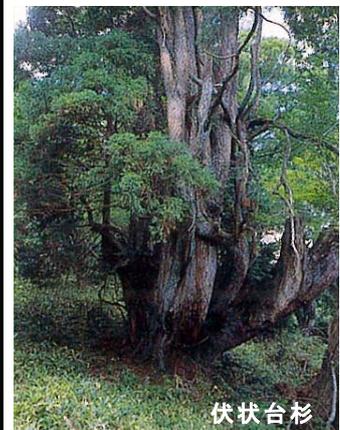


表 7.2.2-1(2) 周辺地域の主な観光施設の概況

旧八木町	清源寺		千体仏造像のために各地を遍歴した木喰（もくじき）上人の十六羅漢像が安置されている。
	氷室の郷		木工室や紙すき室があり、農村文化の体験ができる。
	京都帝釈天		空海によって伽藍が整えられたと参道に108つの鐘が並び、山々に音色が響く。

7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

日吉ダム事業の進行と相まって、周辺の道路事業が進められたことにより、利便性が向上している。日吉ダム完成後のダム周辺でのイベント（の継続）や、「道の駅スプリングスひよし」などへの来訪にも効果的であったと考えられる。

日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷を表 7.3-1 に示す。

表 7.3-1(1) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷 (1959年-1981年)

西暦	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他
1959年				伊勢湾台風(台風15号)、亀岡総雨量148ミリ(25日10時-26日24時)、保津橋最高水位6.4m(27日4時)、家屋全半壊10戸、浸水398戸、湛水600万トンで田畑被害520ha
1960年				台風15号
1961年				建設省、宮村ダム(日吉ダム)建設構想を発表(堰堤高さ70.4m、巾430m、貯水容量6,600万 m^3 、計画流量2,200 m^3/s) 水資源開発促進法、水資源開発公団法公布(公団昭和37.5.1発足)
1963年				亀岡市議会、上桂川逆流対策特別委員会設置(昭和39.8上桂川治水対策特別委員会と改称)
1964年			船井郡産業まつり	京都市、亀岡市、上桂川改修期成同盟会に加盟 台風20号により8,000万円の被害を受ける
1965年			町合併10周年記念式典を園部中学校講堂で挙げる	府、近畿地建「上桂川治水調整全体計画」策定 台風23号、24号、9.14大雨により被害額3億3千万円
1966年		府道園部篠山線(河原町-天引)舗装完成祝賀会 園部電報電話局舎新築、電話交換機が自動化 船岡駅行き違い線路完成		園部・摩気・西本梅・川辺の4農協が合併し園部農業協同組合が発足
1967年				京都府下暴風雨
1968年		熊原簡易水道完成式		近畿地建、桂川治水対策「日吉ダム建設計画」を地元で説明 淀川水系工事実施基本計画改訂、枚方の基本高水17,000 m^3/s 、計画高水流量12,000 m^3/s
1969年		船岡簡易水道起工式		園部区を三つの行政区(小桜町・美園町・栄町)に分ける
1970年		船岡簡易水道完成通水始まる	町合併15周年記念式典を園部中学校体育館で挙げる 町の花に「梅」を選定 第1回産業まつり開催	
1971年	3月日吉ダム実施計画調査開始			町内3森林組合(園部・摩気・西本梅)が合併、役場内で業務開始
1972年	9月基本計画決定 宮村ダム建設、水資源開発法による「淀川水系水資源開発基本計画」に組入れ、日吉ダムと改称。 宮村ダム建設、水資源開発法による「淀川水系水資源開発基本計画」に組入れ、日吉ダムと改称。	宮村ダム建設、水資源開発法による「淀川水系水資源開発基本計画」に組入れ、日吉ダムと改称。		台風20号 京北地方被害大 豪雨により8,000万円の被害 台風20号により2億6,000万円の被害
1973年	1月水資源開発公団日吉ダム調査所開設			
1975年		姫路京都間が国道に昇格(国道372号) 高杭峠(小山西-口人)改修工事完成	第1回園部町文化祭を開催	西部簡易水道(船版)給水開始
1976年			夏の商工祭「花火大会」が中止となり、「水と光の祭典」となる	
1977年		高屋峠の第1次拡幅切り下げ工事完成 高屋峠改修工事完成	生身天満宮「管公神忌1075年大祭」	
1978年		大河内簡易水道給水開始 普及率91.5%	船岡駅開設25周年記念式典挙げる	大干ばつ、被害額6,000万円
1979年		東部簡易水道完成	中央公民館竣工記念文化祭を挙げる	
1981年		原山峠(園部町竹井-篠山町原山)改良工事完成 高杭峠(小山西-口人)舗装工事完了 大見谷峠(園部町大戸-八木町室河原)改良工事完成 天引簡易水道改良工事完成 国道9号バイパス起工式	町合併25周年記念式典を中央公民館で挙げる	日吉ダム水没者団体(日吉ダム対策天若同盟、中ダム対策協議会)水資源開発公団と京都府に補償基本請求書を提出

表 7.3-1(2) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷 (1982年-1999年)

西暦	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他	
1982年	8月日吉ダム建設所開設		第1回とんどまつり開催	水資源開発公団「日吉ダム建設事業実施方針」を公表	
	9月実施計画認可		第1回そのべ七夕まつり開催	水資源開発公団、日吉・八木・京北の水没者団体に損失補償基準を提示	
					口丹波地方6年ぶりの記録的大雪に見舞われる
					台風10号口丹波地方に大被害をもたらす
1983年		大河内簡易水道完成	第1回はばたく園部のスポーツ推進大会を開催	台風10号の豪雨により2億円の被害	
		山陰本線複線電化事業のひとつ、地蔵トンネル貫通			
1984年	9月一般損失補償基準妥結(日吉町及び京北町)		第20回記念園部町球技大会	日吉ダム水没補償につき地元住民と水資源開発公団と基本的合意(9月19日調印) 30年ぶりに府南部に大雪警報、口丹波地方は記録的な大雪	
1985年	6月一般損失補償基準妥結(八木町)	国道9号バイパス新老ノ坂トンネル貫通	新園部町発足30周年記念式典を中央公民館で挙げる		
			85そのべ夏まつりで10年ぶりに火花が復活		
			「宵待ちコンサートinるり溪」を開催		
1988年		京都縦貫自動車道(京都-亀岡市千代川)開通	第1回そのべれんげ祭開催	建設省の「生涯学習のむら建設推進事業」モデル団体の指定を受ける	
		府道川西園部線・町道竹井口司線バイパス開通	第43回国民体育大会京都団体を開催(ライフル射撃・ゲートボール)		
		府道園部能勢線バイパス開通式			
1989年		JR山陰本線(嵯峨-馬堀間)複線化完成			
1990年		法京飲料水供給施設完成 水道普及率100%に	園部町プレ植樹祭をるり溪フラワーガーデンで開催		
		京都縦貫自動車道・熊崎トンネル貫通	町制施行101年・新園部町発足35周年記念式典を挙げる、「マスコットフラワー」を選定発表 KIそのべ世界芸術祭を町中央公民館で開催		
1991年			「第1回とっておきのウォークラリー」開催		
1992年	2月仮排水トンネル工事着手	京都縦貫自動車道・瓜生野トンネル貫通			
		京都縦貫自動車道・新観音トンネル貫通			
1993年	2月公共補償の基本協定締結	府道川西園部線が国道477号に昇格	「ねんりんピック'93 京都」開催		
	2月日吉ダム本体工事着手				
	4月「地域に開かれたダム」指定				
1994年	10月本体コンクリート打設開始	国道372号バイパス(亀岡市宮前町一園部町南八田)開通式			
	11月定礎式		「園部 花と食の祭典」開催		
1995年	2月「地域に開かれたダム整備計画」認定	府道大河内口八田線穴人バイパス開通式	そのべフラワーフェスタinるり溪		
			第1回スウィートシネマパライズ(映画上映会)開催		
1996年	11月本体コンクリート打設完了	京都縦貫自動車道(亀岡-丹波)開通	園部公園陸上競技場竣工式 園部スポーツフェスティバル・そのべ収穫祭開催	豪雨来襲、町内でも浸水被害相次ぐ	
1997年	3月試験湛水開始	京都交通二本松線運行開始	全国高校総体が京都で開催・園部町では男子バレーボール		
	11月試験湛水終了				
1998年	3月竣工式		第1回日吉ダムマラソン開催 10月「スプリングスひよし」オープン		
	4月管理開始 ビジターセンター、インフォギャラリー、スプリングスひよし開設				
1999年		府道園部能勢線大河内バイパス開通	スプリングスフェスタ開催		
		都市計画道路内林小山東町線が全線開通	全国花と緑のフェスティバルinそのべ		
		町道仁江穴人線開通	本町繁栄会のクリスマス企画「本町ルミナリエ」点灯		

表 7.3-1(3) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷 (2000年-2015年)

西暦	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他
2000年		町道横田大西線完成	新園部町発足45周年記念式典を園部国際交流会館で挙行	
2001年		京都縦貫自動車道4車線化(千代川-八木西)・南丹パーキングエリア完成式 府道亀岡園部線船岡道路開通式	第1回そのべートフェスティバル	
2002年	3月日吉ダム水源地域ビジョン策定	京都縦貫自動車道(八木西-園部)4車線化完成式典		
2003年		JR山陰線京都園部間複線化起工記念式典 国道372号(天引道路)開通式		
2004年		都市計画道路京都光悦線(内林町-瓜生野)通り初め式 農業用道路園部八木線第4工区(小山西町-口人)開通祝賀式		台風23号による集中豪雨、連続降雨量241ミリ
2005年			新園部町発足50周年記念式典を中央公民館で挙行 第1回天若湖アートプロジェクト(あかりがつなぐ記憶)開催	京北町が京都市に編入合併(4月1日)
2006年			第1回南丹ビートフェスティバル開催	園部町、八木町、日吉町、美山町が合併し、南丹市発足(1月1日) 梅雨の長雨で、各地に被害
2007年	日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)承認	南丹市新バス路線(園部八木線)運行開始	日吉町中世木公民館竣工式 五ヶ荘小学校閉校記念式典 殿田小学校統合式	南丹市総合振興計画「基本構想」を策定 京都府と南丹市が整備した京都新光悦村で進出第1号の工場が完成
2008年				南丹市の花(さくら)・木(ぶな)・鳥(オオルリ)を制定 南丹市ケーブルテレビサービス全市域に拡大
2009年		八木駅 - 園部駅間が複線化 農業用道路 紅葉山トンネル貫通式	第1回南丹サンサン祭開催	スプリングスひよし入場者250万人達成 五ヶ荘小学校跡地にふる里ファーム五ヶ荘オープン
2010年		JR山陰本線複線化開業記念イベント 日吉駅、胡麻駅開業100周年幹事式典	第17回地域に開かれたダム全国連絡協議会現地交流会開催	「ウッディー京北」が京都市初の「道の駅」登録 京都、兵庫、鳥取の3府県でドクターヘリ共同運航開始 安心メール@南丹市運用開始
2011年				東日本大震災・福島第一原発事故が発生し、京都にも避難者が相次ぐ 京都府人口が初の減少 「スプリングスひよし」が京都市内15ヶ所目の「道の駅」登録
2012年	平成23年度全建賞受賞(水没式複合型曝気装置の開発) 災害時等における支援協定を南丹市建設業協会と締結		日本一周ダムファン写真展開催(ダム愛好家集団の全国キャラバン写真展)	「道の駅スプリングスひよし」全館リニューアル 京都水族館オープン
2013年	台風18号出水により日吉ダム管理開始以来最大のダム流入量を記録、洪水時最高水位を超える貯留により、下流被害を軽減	京都縦貫自動車道の沓掛IC~大山崎JCT・ICが開通(府南部や名神高速と京都縦貫自動車道が直結) 国道162号栗尾峠(栗尾バイパス)の京北トンネル開通	写真展「台風18号 写真で見るダムの力」開催(地元写真愛好家より提供)	台風18号により運用開始後初となる大雨特別警報発表、各地で記録的な豪雨。桂川や由良川などが氾濫、府内全域で交通がまひし、市民生活は大混乱 ダムファンにより開催された「ダムアワード2013」で、日吉ダムが洪水調節賞とダム大賞を授賞
2014年	防災資料館に係る災害時等における一時避難所の指定に関する協定を南丹市と締結 平成25年台風18号出水における日吉ダム操作について、土木学会技術賞及びダム工学会技術賞を授賞		亀岡市防災講演会で日吉ダムの洪水対応について講演 地域(世木地区)報告会「台風18号における対応と地域活性化」開催 日吉ダムで日吉町観光協会主催の婚活イベントを開催 京都水族館のワークショップに日吉ダムの流木を提供	米国の大手旅行雑誌の読者投票による世界人気都市ランキングで、京都市が国内の都市として初めて1位に選出
2015年	報道機関を対象とした日吉ダム洪水対応説明会を開催	京都縦貫自動車道の丹波IC~京丹波わちICが開通(府の南北を結ぶ縦貫道が着工から34年を経て全線開通) 高浜原発に関し、京都府と関西電力が安全協定を締結	「南丹市世木の里盛り上げ隊」結成、地域活性化の取り組みを実施 第1回京都丹波トライアスロン大会 in 南丹の開催	米国の大手旅行雑誌の読者投票による世界人気都市ランキングで、京都市が2年連続で1位

7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

(1) 地域に開かれたダム（平成7年2月）の概要

1) 基本理念とコンセプト

日吉ダム周辺環境整備によって“「新しい里」を作り出す”ことを基本的な考え方として、周辺地域の活性化を目標とした「地域に開かれたダム」の基本理念及び整備計画のコンセプトを次のように設定している。

基本理念

「新しい里づくり」
～風土・自然を基盤とした健康で文化的なまちづくり～

コンセプト

○新しい景観・親自然環境の創出

美しさのみならず、新たな景観と訪れる都市の人々が、身近な自然の素顔に接することのできる環境を、地域の風土、自然の中に創出・提供する。

○ウェルネスライフの場の創出

美しい豊かな自然の中で、心身の健康と意義あるライフスタイルと豊かなコミュニケーションネットワークをつくり育てる場とする。

○新しい地域文化の創出

「人と自然」「人と人」が交流し、学び、知ることで、今まで培われてきた地域の歴史、文化の上に新しい歴史、文化の流れを築き、地域への愛着を深め、地域社会、地域文化、地域のアイデンティティーづくりの発展に寄与する。

2) 地域における位置づけ

日吉ダム周辺環境整備事業は、地域活性化の核としての整備が期待され、地域住民に開かれた形で、ダム湖に接する豊かな山林・原野を活用した、自然緑地・水辺の保全と自然にふれあえる場の創出、水と緑のネットワークづくりに加え、ダム湖周辺のレクリエーション機能の整備・活用を図り、産業の振興、雇用の促進、スポーツ・レクリエーション活動及びさまざまな交流を促進することによって、地域の活性化を期待したものである。

また、流域の旧市町村では「地域に開かれたダム」の位置づけを次のようにまとめている。

○旧日吉町

旧日吉町活性化の中心核として豊かな自然を背景に健康で文化的な新しい、魅力的な空間づくりを行い、地域の活性化、若年層の定住化等を推進する。

○旧京北町

旧京北町の重要施策である「溪流の里・清流の里」構想の中心拠点整備を行い、旧京北町西部地域の活性化を促進する。

○旧八木町

旧八木町の重要施策である「大都市近郊型の田園レクリエーションゾーン創出構想」の森林ゾーンの拠点整備の一環として整備を行い、地域の活性化を促進する。

また、平成10年には、日吉ダムが「地域に開かれたダム」に指定されたことを記念し、「ふるさと切手」も発行された。（図 7.4.1-1 参照）



近畿版 ふるさと切手

貯水池周辺を魅力的な余暇活動の場として誰もが自由に利用できる、地域に開かれたダムそれが「日吉ダム」です。4つのゾーン(里・水・森・山)に分れた水と緑のオープンスペース。人々の豊かな生活と、地域の活性化に役立つ「日吉ダム」を題材にふるさと切手を発行します。

ふるさと切手は、平成元年頃から、各地の名所・行事・風物等を題材とした、地方色豊かな切手を発行し、地方の活性化に専念することと、地球に親しめる郵便サービスを提供することを目的として発行するものです。

日吉ダム〈京都府〉

- 種類 80円郵便切手
- 主題 日吉ダム
- 印刷寸法 縦25.0mm・横31.0mm
- 紙式 銅色 グラビアス色
- シート構成 25枚(縦4枚・横5枚)
- ペーン10枚(シート寸法 縦56.1mm・横120.0mm)
- 定価 800円
- 発行枚数 200万枚、ペーン960部
- 発行日 平成10年(1998)3月2日(月)
- 原画作者 岩澤重夫

図 7.4.1-1 ふるさと切手

(2) 南丹市におけるダムの位置づけ

平成18年1月1日に、日吉ダムが立地する旧日吉町、及び周辺の旧八木町、旧美山町、旧園部町の4町が合併し「南丹市」が誕生した。

南丹市の「新市まちづくりの基本方針」の中で示された、「土地利用方針」では、日吉ダムを含む周辺の地域を「観光・レクリエーションゾーン」に設定し、観光産業の振興に向けた取り組みを地域として行っていくこととされた。

その後、平成23年に、今後の南丹市におけるまちづくりの基本的な方針となる「南丹市都市計画マスタープラン」が策定され、全体構想における地域の位置づけとして、日吉ダム周辺は、桂川の総合的な治水・利水機能、水源涵養や生態系の保全などの緑としての機能を保全するとともに、四季を通じて楽しめる観光・レクリエーション活動の場としての活用を図ることとされた。また、日吉地域のまちづくり構想として、府民の森ひよしや日吉ダム、スプリングスひよしをはじめとする観光レクリエーション資源や、緑豊かな山々に育まれた田園環境、全国的にも貴重な平地分水界に位置する立地特性を活かすため、緑や環境などに関する体験や講習会、健康づくりに関するイベントの開催などを通じて、多様な交流を育むまちづくりを進めることとしている。

このように、地域にとって、日吉ダムは観光・レクリエーション活動などの場としての役割を担っている。

南丹市都市計画マスタープランにおける日吉地域のまちづくり構想図を図7.4.1-2に示す。



【出典：南丹市都市計画マスタープラン】

図 7.4.1-2 日吉地域 まちづくり構想図

7.4.2 地域とダム管理者の関わり

「日吉ダム水源地域ビジョン」は、今後の日吉ダム水源地域の更なる発展・機能維持などを目標として、平成14年3月に策定された。

日吉ダム水源地域ビジョンの策定に際しては、京都大学防災研究所池淵周一教授を委員長に、水源地域の自治体、住民代表、関係諸団体、ダム管理者からなる「日吉ダム水源地域ビジョン協議会」を設立し、同協議会で検討、調整の上とりまとめた。

1) 日吉ダム水源地域ビジョンの概要

日吉ダムの水源地域ビジョンの施策とイメージを図7.4.2-1に、水源地域ビジョンの概要を表7.4.2-1に示す。



図 7.4.2-1 日吉ダムの水源地域ビジョンの施策とイメージ

表 7.4.2-1 日吉ダム水源地域ビジョンの概要
地域に開かれた日吉ダムの新たな展開

ダ ム 湖 周 辺 地 域 の 整 備	実施 スケジュール	テーマ	実 施 の 手 法			実施主体
			施設	利用・活用	メニュー	
短期	現状施設の展開	スプリングスひよし	文化交流、健康づくり	アーティスト・工芸家の個展、作品展、 スポーツ教室、フィットネス		旧日吉町
		スプリングスパーク	文化交流、健康づくり	アーティスト・工芸家の個展、作品展、 スポーツ教室、フィットネス		旧日吉町
		インフォギャラリー	文化交流	アーティスト・工芸家の個展、作品展		水資源機構
		日吉ダム防災資料館（ビ ジターセンター）	環境学習機能 インフォメーション機能 休憩機能			水資源機構
		日吉ダム湖	湖面利用の促進	カヌー・魚釣り		旧日吉町 旧京北町 旧八木町
		梅ノ木谷公園 ～世木ダム湖周辺	湖面利用の促進	カヌー・魚釣り		大堰川漁業協同組合 上桂川漁業協同組合 水資源機構
		宇津峡公園	地元交流	食材販売		旧京北町
		府民の森ひよし	利用活用メニューの拡大	府民参加の森づくり 森林ボランティアの養成 一般府民の利用 森づくりへの誘導 地元との交流		日吉町森林組合 旧日吉町
		郷土資料館	移築民家の活用			旧日吉町
		サイクリングセンター	特化型の利用			旧日吉町
中期	環境学習をテーマ とした展開	原石山跡地	自然観察のフィールド	自然復元によるビオトープ		水資源機構
		小倉谷休憩所	水辺の観察 湖面利用の基地			水資源機構
		梅ノ木谷公園～宇津峡公園	水辺の学習フィールド 環境学習の拠点			日吉ダム湖に同じ
		府民の森ひよし	環境学習の運営拠点 森の学習フィールド	プログラムリーダーの養成 情報発信の場		日吉町森林組合 旧日吉町
		郷土資料館	ダム周辺地域の歴史・文化の学習 地域の暮らし・生活文化の学習			旧日吉町
		日吉町「生涯学習センター」	プログラムリーダーの養成 環境セミナーの開催			旧日吉町
		日吉町「体験の森」	森の環境学習			旧日吉町
		農地	環境保全型農業			日吉町森林組合
		森林	森林ボランティアによる森づくり			日吉町森林組合
		長期	周辺施設・地域へ の広がり	環境学習による地域交流	農業体験・農村生活プログラム 地域の環境学習	} 地域間交流
市民参加型の森づくり	森林ボランティアの活動 森林支援・里山の保全、管理・自然教育、学習				日吉町森林組合	
施設利用者と地元の交流	イベント・祭り・文化交流					旧日吉町
周辺施設とのネットワーク	鍼灸大学・病院+スプリングスひよし →健康づくり 生涯学習センター+スプリングスひよし →文化活動 インフォギャラリー 体験の森+府民の森ひよし →森林ボランティア 環境学習					旧日吉町 旧日吉町 水資源機構 日吉町森林組合

2) 水源地域ビジョンの活動経緯

策定された「日吉ダム水源地域ビジョン」の実施体制として、平成14年度に地域住民や関係機関から成る「日吉ダム水源地域ビジョン連絡会」（以下「連絡会」という。）を組織し、地域住民の主体的な取組みを支援するとともに、連絡会の継続的な開催により、関係者相互の連絡と調整を図りつつ、必要な見直しを行いながら、より良いビジョンを目指して活動を行っている。

平成16年9月に「環境分科会」を設置し、「日吉ダム環境管理・学習基本計画(案)」の検討などを行っており、平成17年4月には環境分科会の「専門部会」として「日吉ダム冷濁水対策検討会（以下、「検討会」という。）を設立している。

検討会については、下流河川の状況及び既往調査結果により望ましい水質のあり方について議論した上で、冷濁水発生メカニズムの推定や対応策について、学識経験者、自治体、漁業関係者を交えて議論してきた。平成19年3月に「日吉ダム冷濁水対策マニュアル（案）」を策定し、以降、運用及び対策効果の検証を行っている。

水源地域ビジョン策定の流れ、その後の連絡会の活動経緯を表7.4.2-2に示す。

表 7.4.2-2(1) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討 議 内 容 等	備 考
ビジョン協議会		
第1回(協議会) H13.10.15	・条件整理 ・水源地域ビジョン策定にあたっての基本方針の提示	
第2回(幹事会) H13.12.18	・現況施設への取り組みの確認 施設整備・利用活動・管理運営に関して ・水源地域ビジョン策定に向けての検討	
第3回(幹事会) H14.2.8	・水源地域ビジョン(案)の提示 ビジョン策定の基本方針 水源地域ビジョン(案)の提示	
第4回(協議会) H14.3.4	・水源地域ビジョン(最終案)の提示 水源地域ビジョン(案)のまとめ	日吉ダム水源地域ビジョンとその具体化に向けて連絡会設立が承認される
ビジョン記者発表	H14.4.10	
ビジョン連絡会		
第1回 H14.5.22	・連絡会会則(案)の提案 ・メンバー追加について	
第2回 H14.8.8	・連絡会会則(案)の提案 ・第3回世界水フォーラムにおいて ・同上・イベント「水フェスティバル in 日吉(10月20日開催)」について	
第3回 H14.11.14	・桂川における上下流交流事業の実施状況について ・第3回世界水フォーラムの展示について ・水源地域ビジョンの実施に向けて	京都府
第4回 H14.12.12	・第3回世界水フォーラムの展示について	
第5回 H15.1.29	・第3回世界水フォーラムの展示について ・ビジョン連絡会の今後の活動について	京都府
第6回 H15.3.25	・第3回世界水フォーラムの展示について(報告) ・ビジョン連絡会検討部会への依頼について	京都府
第7回 H15.5.26	・人事異動に伴うメンバーの変更について ・湖面利用分科会会則(案)の提案 ・湖面利用分科会のメンバーについて	
第8回 H15.7.22	・湖面利用分科会会則(案)の提案 ・湖面利用分科会のメンバーについて	
第9回 H16.4.14	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	正にすることの承認を得た(第5回湖面利用分科会後開催)
第10回 H16.7.7	・環境分科会会則(案)について ・環境分科会メンバー(案)について ・湖面利用計画の進入路の確認及び清掃	正にすることの承認を得た 正にすることの承認を得た 確認及び清掃を行った
第11回 H16.9.13	・ビジョン連絡会・湖面利用の進入路確認意見 ・連絡会メンバーの変更について ・環境分科会メンバーの変更について	
第12回 H17.3.2	・日吉ダム環境管理・学習計画(案)について ・日吉ダム水質対策についての専門部会設置とメンバーについて ・その後の湖面利用状況及び桂川流域ネットワーク活動報告	
第13回 H17.5.30	・環境部会・専門部会実施内容 (第1回日吉ダム冷濁水対策検討会:H17.4.18)の報告 ・原石山跡地の植樹について ・天若湖アートプロジェクトの今後の予定について	
第14回 H19.3.14	・日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)について ・ダム等管理フォローアップの報告 ・その他	
第15回 H20.6.11	・日吉ダム水源地域ビジョン連絡会の経緯について ・ビジョンの今後の進め方(案)について ・平成19年度実施状況・平成20年度計画について ・会則変更について ・その他	
第16回 H21.6.18	・平成20年度実施状況・平成21年度実施計画について ・平成20年度統一清掃実施状況報告 ・現状課題と今後の対応について ・H21日吉ダムフラッシュ放流試験について【速報】 ・日吉ダム防災資料館(ビクターセンター)一時避難所運営計画について ・平成21年度「森と湖に親しむ循環」現地行事支援事業について ・河川敷における利用のあり方について	
第17回 H22.6.25	・平成21年度実施状況・平成22年度実施計画について ・平成21年度統一清掃実施状況報告 ・平成21年度ダム湖利用実態調査アンケート結果について ・国土交通省土地・水資源局水資源部「水の里だより」について ・日吉ダム防災資料館(ビクターセンター)の有効利用について	

表 7.4.2-2(2) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討 議 内 容 等	備 考
第 18 回 H23. 6. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度実施状況・平成 23 年度実施計画について ・平成 22 年度統一清掃実施状況報告 ・ウェイボードの使用承認について ・釣りを目的とする土地使用承認の手続きの変更について ・インフォギャラリー、ビジターセンターの営業日の変更について ・地域情報発信について ・その他 	
第 19 回 H24. 7. 13	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度実施状況、平成 24 年度実施計画について ・平成 23 年度統一清掃実施状況報告 ・貯水池周辺の不法投棄処理について ・原石山跡地整備状況について ・流木配布について ・「平成 23 年度 近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会」の報告 ・「日吉ダム冷濁水対策検討会」開催報告 ・その他 	
第 20 回 H25. 6. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度実施状況、平成 25 年度実施計画について ・平成 24 年度統一清掃実施状況報告 ・河川水辺の国勢調査（魚類）結果報告 ・水源地域実態調査業務（国土交通省）について ・淀川水系におけるダム湖利用実態調査について ・意見交換・その他 	
第 21 回 H26. 7. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・日吉ダム水源地域ビジョンの概要と現状について ・平成 25 年度実施状況 ・平成 26 年度実施予定 ・連絡調整事項・その他 	
第 22 回 H27. 8. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・日吉ダム水源地域ビジョンの概要と現状について ・平成 26 年度実施状況 ・平成 27 年度実施予定 ・その他 	

表 7.4.2-2(3) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討 議 内 容 等	備 考
湖面利用分科会		
第 1 回 H15.11.12	・ビジョン連絡会の経緯 ・湖面利用について	
第 2 回 H16.1.29	・一般利用者の湖面利用ルールについて ・日吉ダム湖面利用計画(案)について ・湖面利用分科会のメンバーについてスケジュール ・今後のスケジュールについて ・環境にやさしい湖面利用と地域づくりを目指して	京都大学 木山先生
第 3 回 H16.2.23	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	
第 4 回 H16.3.24	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	
第 5 回 H16.4.14	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	連絡会へ上げる了解を得た
環境分科会		
第 1 回 H16.9.13	・日吉ダム環境管理・学習基本計画(案)について	
第 2 回 H17.4.18	・日吉ダム冷濁水対策検討会(環境分科会の専門部会として)の設立について	同検討会は平成 18 年 2 月までに 4 回実施
第 3 回 H17.5.30	・環境部会・専門部会実施内容 (第 1 回日吉ダム冷濁水対策検討会 : H17.4.18) の報告 ・原石山跡地の植樹について ・天若湖アートプロジェクトの今後の予定について	
第 4 回 H19.3.14	・日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)について ・ダム等管理フォローアップの報告 ・その他	
冷濁水対策検討会 (環境分科会専門委員会)		
第 1 回 H16.9.13	・研究会の発足にあたって(設立趣意、規約について) ・日吉ダムの諸元と冷濁水の実態について ・今後の検討内容とスケジュールについて	規約承認
第 2 回 H17.8.8	・冷水放流及び長期濁水放流発生の上流の状況 ・望ましい水温及びにごりのレベルについて(その 1) 設立について	
第 3 回 H17.11.28	・望ましい水温及び濁りのレベルについて(その 2) ・水温及び濁水調査結果とその考察について ・水温及び濁水放流対策(案)について	
第 4 回 H18.2.1	・冷濁水放流対策案の抽出 ・平成 18 年度検討内容(案) ・平成 18 年度現地調査計画(案)	
第 5 回 H18.9.6	・平成 17 年度日吉ダム冷濁水対策検討会の概要 ・出水時の冷水放流問題と対策について ・貯水池水位低下時の冷水放流問題と対策について ・循環期の長期濁水放流問題と対策について	
第 6 回 H18.12.13	・出水時の冷水放流対策マニュアルの方針(案)について ・貯水池水位低下時の冷水放流マニュアルの方針(案)について ・循環期の長期濁水放流対策マニュアルの方針(案)について ・第 7 回検討会の議題について ・連絡事項ほか	
第 7 回 H19.2.28	・日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)について ・モニタリング計画(案)について ・平成 19 年度以降の取り組みについて ・連絡事項ほか	対策マニュアル案が承認された。
第 8 回 H20.3.12	・平成 19 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」の改定について ・連絡事項ほか	
第 9 回 H21.3.9	・平成 20 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・貯水池水温と放流水温との関係(H20 調査報告) ・今後の検討予定について ・連絡事項ほか	
第 10 回 H22.3.4	・平成 21 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・深層曝気装置の改良について(試験報告) ・今後の検討予定について ・連絡事項ほか	

表 7.4.2-2(4) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討 議 内 容 等	備 考
第 11 回 H23.3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・今後の予定について ・連絡事項ほか 	
第 12 回 H24.3.12	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・日吉ダム冷濁水対策マニュアルの改定(案)について ・長期濁水放流に対するハード対策の概略検討結果 ・世木ダム濁度について ・今後の予定について ・連絡事項ほか 	
第 13 回 H25.3.26	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年の日吉ダム冷濁水対策マニュアル運用報告 ・水没式複合型曝気装置の実証実験報告 ・河川水辺の国勢調査(魚類)結果報告 ・連絡事項ほか 	
第 14 回 H26.3.14	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年の日吉ダム冷濁水対策マニュアル運用報告 ・下流河川付着藻類調査結果報告 ・台風後の下流河川魚類調査結果報告 ・連絡事項ほか 	
第 15 回 H27.3.20	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年の日吉ダム冷濁水対策マニュアルの運用実績 ・ドローダウン計画見直しの運用効果 ・水質シミュレーションモデルによる冷濁水対策運用効果の検証結果 	

7.5 ダム周辺の状況

7.5.1 ダム周辺整備事業の状況

日吉ダムは平成5年4月に「地域に開かれたダム」として指定され、平成7年2月に3町（旧日吉町、旧京北町、旧八木町）共同で作成した「地域に開かれたダム整備計画書」の認定を受け、この計画に基づき、地域とダムとの一体的整備を目指し、3町が設置した「日吉ダム周辺環境整備協議会」による調和のとれたダム湖周辺の環境整備が進められ、それぞれの立地特性を活かした施設が整備されている。

また、3町の施設以外に、京都府（平成18年4月から第3セクターで運営）の「府民の森ひよし（STIHLの森京都）」、水資源機構の「インフォギャラリー」、日吉ダム防災資料館（ビクターセンター）」なども整備されている。「インフォギャラリー」は日本で初めてダム堤体内に設置されたもので、当時、話題を呼んだ施設である。

これらの施設は一体となってお互いに補完、棲み分けをしながら利用に対応している。日吉ダムの周辺整備状況を図 7.5.1-1～図 7.5.1-2 に示す。



図 7.5.1-1(1) 日吉ダム周辺整備施設

地域の自然と身近にふれあ
ヘルシーで文化的
日吉ダムも応

い、思いっきり楽しめる！
な新しい里づくり
援しています

楽しさの
入り口！

スプリングパークや日吉ダムがある、いわば日吉ダムの表玄関です。この地域を訪れた人々のスポーツやレクリエーションの出发点になります。

水と緑の
絶景！

ダム湖と、それをとりまくふるさとの緑の眺めを楽しみ、水と緑のコントラストが最高。夏には世木ダムがつくる薄の風景も見どころです。

自然との
ふれあい！

森の散策や観察ができる府民の森や貯水池周辺に設けた休憩所などがあり、釣りやサイクリングが楽しめます。

アウトドアライフ
満喫！

キャンプなどさまざまなアウトドアライフが楽しめる宇津峡公園は、本格的な自然が体験できます。



図 7.5.1-1(2) 日吉ダム周辺整備施設

表 7.5.1-1 各ゾーンの位置付け

ゾーン名	位置付けと内容	
里のゾーン	①日吉ダムのメインエントランス ②都市との交流の場 ③旧日吉町のスポーツ拠点	<ul style="list-style-type: none"> 旧日吉町のイメージを伝えるゾーン 「旧日吉町のよさ」を印象づけ、認識する場。 都市との文化交流の場として、都市と文化の共有化を進め、旧日吉町の定住化をはかるとともに、新・旧住民との交流の場とする。 町内に不足しているスポーツ施設を整備し町の「スポーツ」機能の拠点とする。
水のゾーン	①展望を楽しむ場 ②水と親しむ場	<ul style="list-style-type: none"> 道路、展望施設、橋よりダム湖面や、水に映る山並み等の風景を楽しみながら、周遊、散策ができるものとする。 日吉ダム湖、世木ダム湖の特性を利用し、湖面スポーツ、水遊び、魚釣り、湿生植物観察、散策等に積極的に活用する。
森のゾーン	①森を知る場 ②森と親しむ場	<ul style="list-style-type: none"> 森の知識を提供し、森（自然）に対する認識を深める場とする。 音楽、工芸、セミナー等の様々な文化活動をアメニティの高い環境（森）の中で行い、心身のリフレッシュを図る場とする。
山のゾーン	①本格的に自然（山・森）と関わる場	<ul style="list-style-type: none"> 最も自然度の高いゾーンとして本格的に自然と動的に関わりながら、自然そのものを活かし楽しむ場とする。



ダムの広報施設

■インフォギャラリー

日吉ダムでは、日本で初めて、ダム堤体内部を見学できるようになりました。
このインフォギャラリーでは3つのテーマゾーンと実際のダムゲートが見学できるようになっています。



図 7.5.1-2(1) 日吉ダムの広報施設

■ビジターセンター

ビジターセンターでは、水の役割、水の働き、水の恐さなど、水について、また、日吉ダムについて、パネルや映像、模型で説明しています。そのなかには、自分で探さなければ、見つからないものもあり楽しくダムの勉強ができるようになっています。



日吉ダム・ビジターセンター



日吉ダムゾーン



水の脅威ゾーン

日吉ダムゾーン

探検！発見！日吉ダム
日吉ダムの機能やその周辺の自然などについて、縮小ジオラマ模型やパソコンで紹介しています。それぞれの機器を操作することによって、日吉ダムや、周辺に生息している動植物などについて理解を深めていただくことができます。

人・水・自然を結ぶ日吉ダム
眼前に広がる日吉ダムの景観を背景に、日吉ダムの役割と、ダム湖である天若湖の自然についてパネルで紹介しています。

水の脅威ゾーン

洪水体験
洪水の映像とイメージ音響により、水は恩恵だけでなく、生命や財産を脅かす存在であることを体験していただけます。

洪水のメカニズム
保津峡が桂川の洪水に対してどのような影響を及ぼしているか、また、日吉ダムが桂川の洪水に対してどのような効果があるかを模型とナレーションで紹介しています。

インフォメーションカウンター

フロア構造
2F 展示ホール
1F メモリアルギャラリー
日吉ダムシアター
トイレ



日吉ダムシアター

ウェルカムゾーン

地球をめぐる桂川の水
淀川から桂川、源流までを、パネルとイメージ映像で表現することによって、それが地球レベルでの水の循環の一部であることを説明します。また、展示ホールの導入部として、水と川への親近感を深めていただけます。



ウェルカムゾーン

水の恩恵ゾーン

生命を育む水
動植物と水のかかわりをパネルなどで紹介します。地球上に生息する生き物はすべて生命維持に水が欠かせないことが理解していただけます。パネルを開くことで内容を読めるようになっています。

暮らしや社会を支える水
私たちの暮らしや身近な社会の中で水がどのように利用されているかをパネルなどで紹介しています。人間は生命維持以外にも水と密接に関わり合っていることが理解していただけます。

メモリアルギャラリー

1Fフロアには、水源3町の日吉ダム建設前の暮らしや昔からの伝統を写真で紹介しています。



メモリアルギャラリー



水の恩恵ゾーン

川とともに
私たち人間と川との関わり合いについて、また、水運や漁業、レジャーなどについてパネルや映像などで紹介しています。川とのさまざまな関わり合いを通した水の恩恵について理解していただけます。

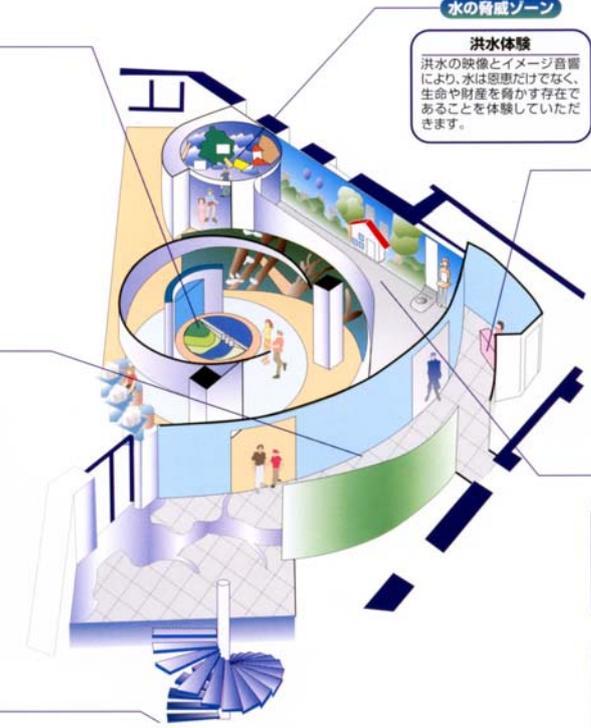
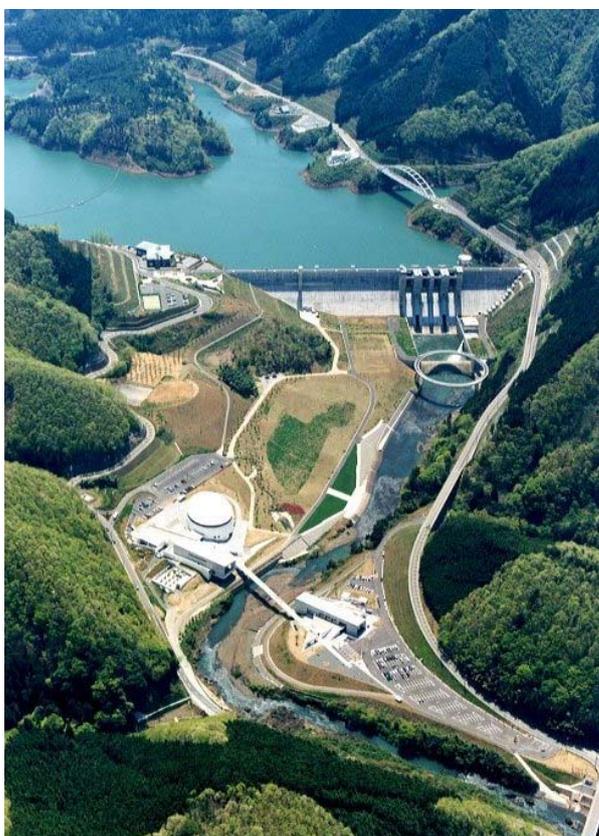


図 7.5.1-2(2) 日吉ダムの広報施設

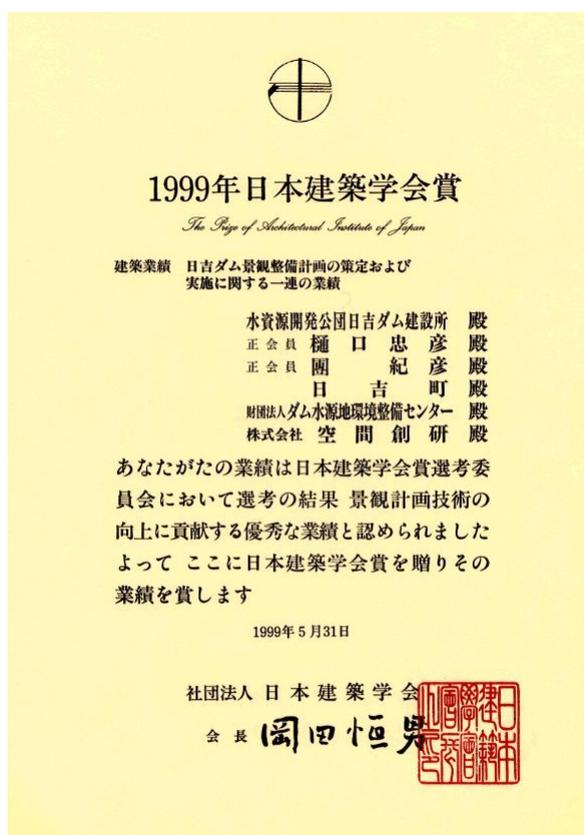
【1999年日本建築学会賞(業績)受賞】

日吉ダムは、「地域に開かれたダム」の指定を受けたことを機に、地形や自然・社会環境を十分に活かしたダム周辺の環境整備計画を策定し、整備を実施している。特に、新潟大学樋口忠彦教授（現：京都大学大学院教授）の指導のもとに、水資源機構、旧日吉町、（財）ダム水源地環境整備センター、建築家團紀彦氏、（株）空間創研が協力した土木構造物である「日吉ダム」と建築構造物である「スプリングスひよし」を「ダム下流公園」を介して一体的に整備し、優れた景観を創出した業績が評価され、「1999年日本建築学会賞（業績）」を受賞している。

日本建築学会賞は、建築に関する学術・技術・芸能の進歩発展を図るとともに、我が国の建築文化を高め、公共の福祉に寄与することを目的にもうけられたもので、昭和24年以来毎年極めて顕著な業績のあったものが表彰されている。



日吉ダムとスプリングスひよし



1999年日本建築学会賞の表彰状

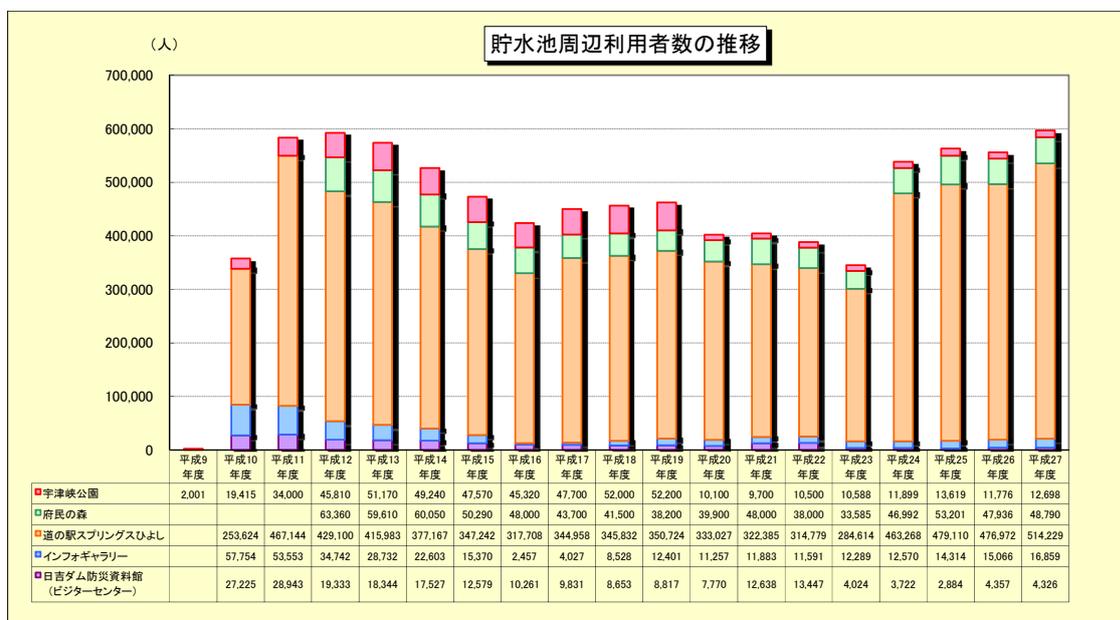
7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

日吉ダム貯水池周辺施設の利用状況として、ダム周辺の3施設「道の駅スプリングスひよし、府民の森ひよし（STIHLの森京都）、宇津峡公園」の利用者数の推移を図7.5.2-1に示す。また、日吉ダムでは、地域住民等のダム施設や管理に関する理解を得るために、随時、ダムの広報施設等を一般に開放しており、ダム堤体内の「インフォギャラリー」及びダム直上流の「日吉ダム防災資料館（ビジターセンター）」の利用者数についても併せて示した。

道の駅スプリングスひよしの利用者数は、他の施設に比べて著しく多くなっており、平成11年度をピークに減少傾向であったが、平成24年度に増加に転じ、平成27年度にはこれまでに最も多かった平成12年度を上回り最高を記録した。これは、平成23年10月1日に京都府内15ヶ所目の「道の駅」として供用が開始され、知名度が向上したこと、平成24年3月のリニューアルオープンにより、集客力が向上したためと考えられる。

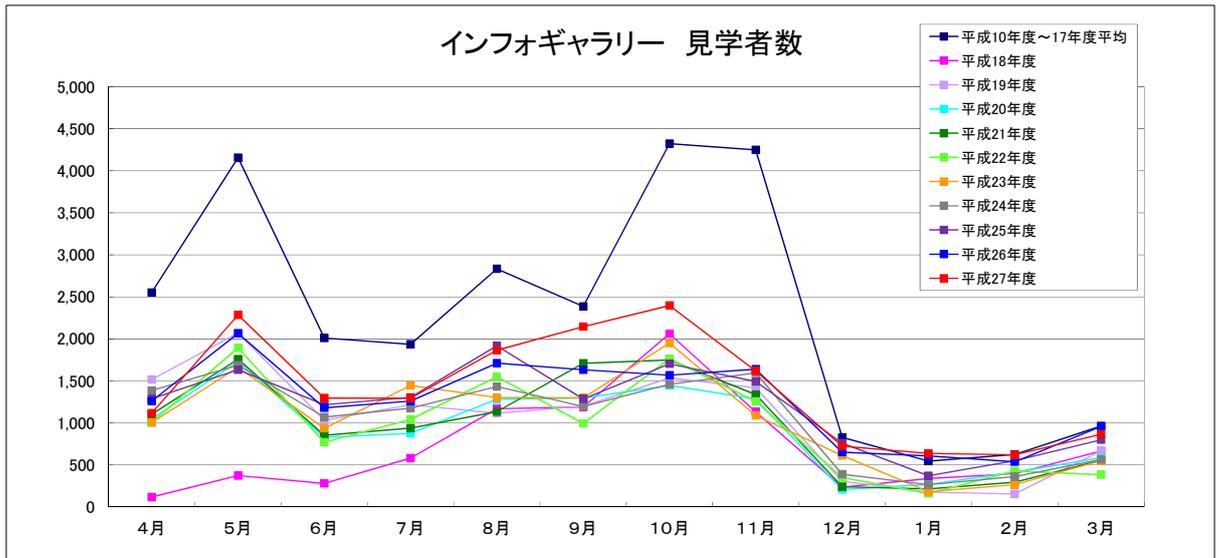
なお、日吉ダム防災資料館の利用者数について、平成23年度に大幅に減少しているが、休館日を変更（火曜日、木曜日、年末・年始休館→土日、祝祭日、年末・年始休館）したことが要因として考えられる。また、宇津峡公園の利用者数について、平成20年度に大幅に減少しているが、カウント方法の変更によるものである。

各年度の月別施設見学者数及び来館者数の推移を図7.5.2-2に示す。道の駅スプリングスひよしは、年間を通じて安定して利用されているが、インフォギャラリー及び日吉ダム防災資料館は、冬季の利用者が少なくなっている。なお、道の駅スプリングスひよしの平成23年1月、2月の利用者の顕著な減少は、施設リニューアル工事に伴う臨時休館によるものである。

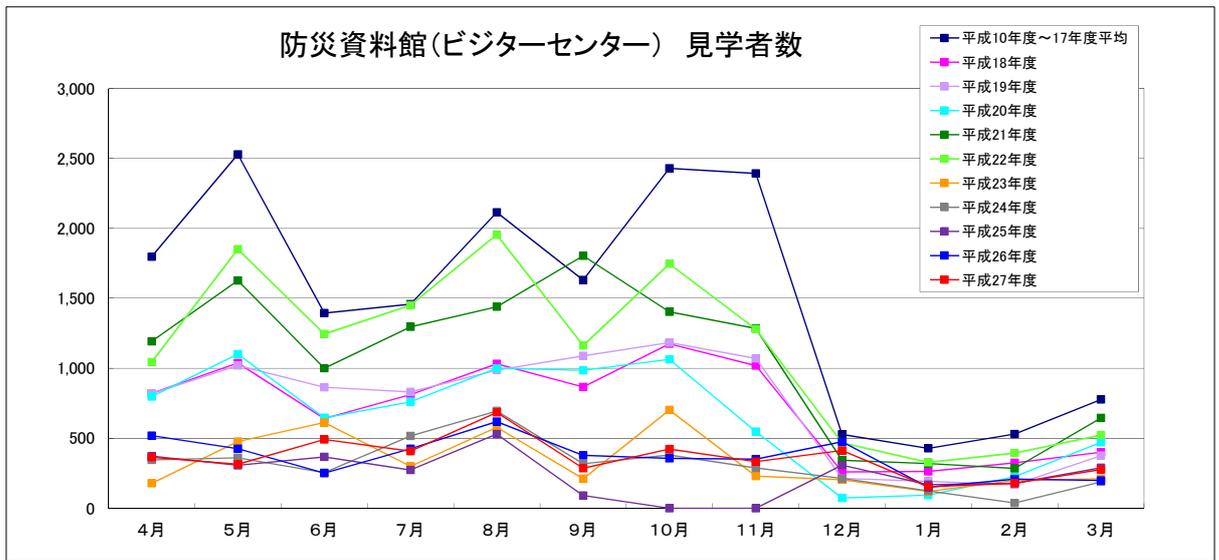


- * 日吉ダム防災資料館（ビジターセンター）・インフォギャラリー：平成10年4月開園
- * 道の駅スプリングスひよし：平成10年10月1日「スプリングスひよし」オープン、平成23年10月1日道の駅登録
- * 府民の森ひよし：平成12年4月29日開園
- * 宇津峡公園：平成9年6月末開園
- * 宇津峡公園の利用者数のカウント方法は、平成20年度より変更
(平成19年度までは目視確認による施設利用者数であり、平成20年度以降は入場チケット購入者数である。)

図 7.5.2-1 貯水池周辺施設の利用者数の推移

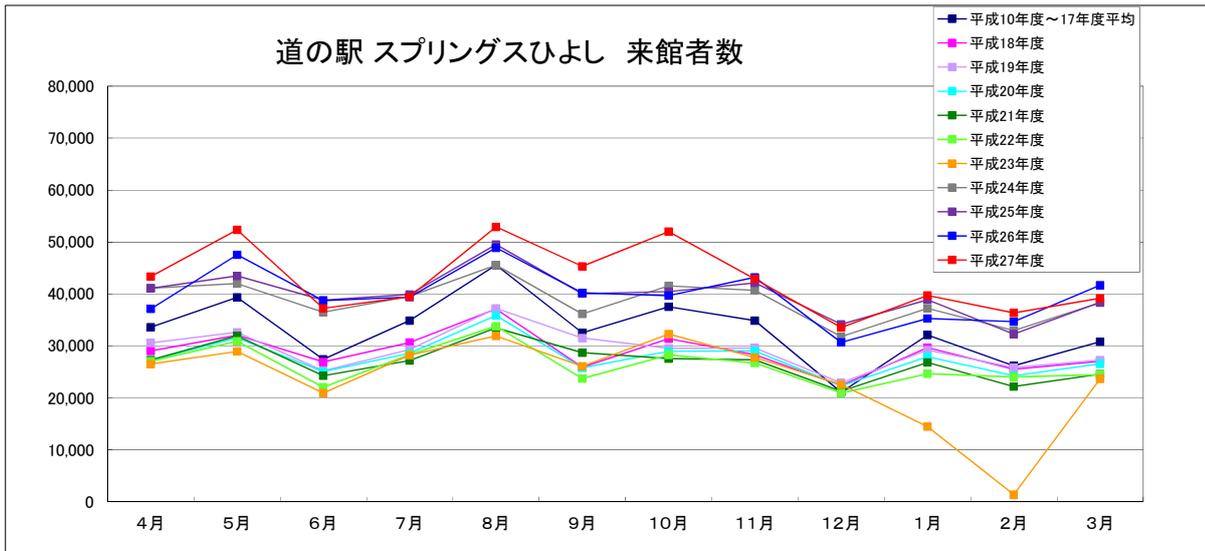


年 度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成10年度～17年度平均	2,551	4,157	2,010	1,935	2,834	2,387	4,325	4,249	827	545	624	962	27,406
平成18年度	116	373	279	580	1,169	1,189	2,061	1,131	233	337	395	665	8,528
平成19年度	1,515	2,070	1,031	1,217	1,114	1,199	1,535	1,418	305	175	155	667	12,401
平成20年度	1,046	1,729	829	875	1,280	1,298	1,445	1,284	205	266	413	587	11,257
平成21年度	1,103	1,759	852	938	1,133	1,709	1,749	1,337	240	215	293	555	11,883
平成22年度	1,005	1,895	770	1,042	1,549	994	1,764	1,255	350	158	427	382	11,591
平成23年度	1,002	1,662	936	1,446	1,302	1,298	1,950	1,087	611	181	265	549	12,289
平成24年度	1,385	1,687	1,068	1,174	1,432	1,195	1,459	1,595	388	265	359	563	12,570
平成25年度	1,287	1,633	1,217	1,304	1,916	1,284	1,702	1,493	758	371	550	799	14,314
平成26年度	1,260	2,065	1,178	1,260	1,712	1,632	1,567	1,638	651	608	537	958	15,066
平成27年度	1,115	2,285	1,295	1,294	1,865	2,145	2,397	1,618	723	637	620	865	16,859



年 度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成10年度～17年度平均	1,798	2,528	1,394	1,458	2,114	1,630	2,428	2,392	528	428	530	777	18,005
平成18年度	821	1,038	641	812	1,031	867	1,175	1,019	260	263	325	401	8,653
平成19年度	820	1,021	865	831	987	1,089	1,184	1,070	214	192	168	376	8,817
平成20年度	798	1,102	646	761	1,000	985	1,064	548	74	94	226	472	7,770
平成21年度	1,192	1,626	1,001	1,296	1,440	1,804	1,403	1,285	343	319	284	645	12,638
平成22年度	1,044	1,851	1,245	1,451	1,955	1,162	1,746	1,280	468	328	394	523	13,447
平成23年度	178	477	612	300	579	211	702	230	204	120	200	211	4,024
平成24年度	346	361	254	517	695	318	380	288	214	123	38	188	3,722
平成25年度	373	307	367	273	530	91	0	0	308	168	178	289	2,884
平成26年度	519	426	251	425	619	378	357	350	475	150	208	199	4,357
平成27年度	364	314	491	408	685	286	423	333	413	153	179	277	4,326

図 7.5.2-2 (1) 施設見学者数の推移



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成10年度～17年度平均	33,581	39,346	27,395	34,864	45,564	32,522	37,515	34,872	21,050	32,086	26,174	30,806	395,775
平成18年度	29,012	32,049	26,910	30,626	37,095	25,908	31,368	28,281	22,386	29,658	25,484	27,055	345,832
平成19年度	30,578	32,631	25,189	29,291	37,227	31,511	29,527	29,592	22,889	29,176	25,823	27,290	350,724
平成20年度	27,199	31,529	25,049	28,595	35,860	25,748	28,966	29,039	22,318	27,931	24,244	26,549	333,027
平成21年度	27,271	31,905	24,238	27,161	33,474	28,687	27,535	27,319	21,272	26,804	22,177	24,542	322,385
平成22年度	27,026	30,894	22,048	28,303	33,809	23,717	28,237	26,716	20,930	24,636	24,008	24,455	314,779
平成23年度	26,514	28,932	20,930	28,227	31,896	26,060	32,285	27,744	22,584	14,427	1,362	23,653	284,614
平成24年度	41,125	42,004	36,488	39,526	45,545	36,143	41,551	40,668	31,762	37,231	32,939	38,286	463,268
平成25年度	41,085	43,478	38,790	39,900	49,515	40,037	40,450	42,134	34,169	38,879	32,292	38,381	479,110
平成26年度	37,127	47,531	38,693	39,391	48,873	40,226	39,668	43,189	30,667	35,261	34,663	41,683	476,972
平成27年度	43,339	52,350	37,207	39,481	52,915	45,320	51,995	42,876	33,538	39,697	36,338	39,173	514,229

図 7.5.2-2(2) 施設来館者数の推移

7.5.3 ダム及び周辺のイベント等の開催状況

平成23年～平成27年の主な地元との交流、日吉ダム及び周辺のイベントの開催状況を表7.5.3-1～表7.5.3-5、図7.5.3-1～図7.5.3-5に示す。ダム周辺のイベントとしては、春に日吉ダムマラソン、夏にひよし夏まつり、天若湖アートプロジェクト、秋にはひよし水の杜フェスタ等が開催されている。また、上下流交流として京都府営水道と連携した施設見学会(水の恵み見学ツアー)を開催しており、下流域の日向市まつり、来て見て体験 in 村野浄水場などのイベントにも参加している。このほか、地元イベントへの協力、小学生の社会見学をはじめ各種団体等の施設見学案内、桂川クリーン大作戦(ボランティア)の参加などが行われている。

表 7.5.3-1 主な地元との交流及びイベントの開催状況(平成23年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
第4回桂川クリーン大作戦	桂川流域クリーンネットワーク	H23.2.20	桂川流域クリーンネットワーク主催のもと、地域住民や地元の企業、自治体などが連携した大規模な清掃活動「第4回桂川クリーン大作戦」が桂川流域で行われ、日吉ダムからも参加した。
水の恵み見学ツアー	日吉ダム管理所	H23.4.23	京都府営水道乙訓浄水場の施設公開に併せて、日吉ダムの水を利用している乙訓浄水場給水区域の地域住民を対象に、水源施設である日吉ダムと乙訓浄水場の施設見学会「水の恵み見学ツアー」を開催するとともに、乙訓浄水場の施設内において、パネル展示と流木チップを用いた堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割等をPRした。
ひよし夏まつり	日吉町観光協会	H23.7.17	日吉ダム下流広場を利用した地域行事「ひよし夏まつり」に併せ、日吉ダム管理所ではクレストゲート室の一般開放、防災資料館臨時開館(日吉ダムに関するビデオ放映)、インフォギャラリーにおいて「第25回水とのふれあいフォトコンテスト」の入賞作品の展示を実施した。
天若湖アートプロジェクト	天若湖アートプロジェクト実行委員会	H23.8.6～7	水源地域住民への感謝と上下流の市民交流、地域の活性化を目的に、地域住民と大学が連携し、日吉ダム建設によって水没したかつての集落の夜景を再現する取り組みを実施。日吉ダムは、実行委員会の一員として、湖面に浮かべる「あかり」の設営等の協力・協働を実施した。
ひよし水の杜フェスタ	ひよし水の杜フェスタ実行委員会	H23.10.24	日吉ダム下流広場を利用した地域行事「ひよし水の杜フェスタ」に併せ、日吉ダム管理所では「ダム探検ツアー」と題した堤体内の施設見学会、パネル展示、流木チップを用いた堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割等について啓蒙活動を実施した。
おおやまざき産業まつり	大山町、大山崎町商工会及び京都中央農業協同組合	H23.10.30	日吉ダムのパネルを展示していただくとともに、流木をチップ化した堆肥を提供した。
京北ふるさとまつり	京都市右京区京北町	H23.11.3	上流域の京都市右京区京北で開催された「京北ふるさとまつり」に参加し、日吉ダムのパネル展示と流木チップを用いた堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割等をPRした。
来て見て体験 in 村野浄水場	大阪広域水道企業団	H23.11.6	パネル展示と流木をチップ化した堆肥の配布を行い、ダム管理についてPRした。
向日市まつり	向日市まつり実行委員会	H23.11.19～20	下流域の向日市で開催された「向日市まつり」に参加し、日吉ダムのパネル展示と流木チップを用いた堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割等をPRした。



水の恵み見学ツアー (H23. 4. 23)



ひよし夏まつり (H23. 7. 17)



天若湖アートプロジェクト (H23. 8. 6~7)



ひよし水の杜フェスタ (H23. 10. 24)



京北ふるさとまつり (H23. 11. 3)



向日市まつり (H23. 11. 19~20)

図 7.5.3-1 地元との交流及びイベント風景

表 7.5.3-2 主な地元との交流及びイベントの開催状況(平成24年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
出前講座	京都府立南丹高校	H24. 1. 12	京都府立南丹高校において、2年生21人を対象に「日吉ダムの管理」について、出前講座を実施した。
第5回桂川クリーン大作戦	桂川流域クリーンネットワーク	H24. 2. 19	桂川流域クリーンネットワーク主催のもと、地域住民や地元の企業、自治体などが連携した大規模な清掃活動「第5回桂川クリーン大作戦」が桂川流域で行われ、日吉ダムからも参加した。
水の恵み見学ツアー	日吉ダム管理所	H24. 4. 21	日吉ダムの水を利用している地域住民を対象に、水源施設である日吉ダムと乙訓浄水場の施設見学会「水の恵み見学ツアー」を開催し、日吉ダム管理についてPRした。
第15回日吉ダムマラソン	日吉ダムマラソン大会実行委員会	H24. 4. 22	ダム貯水池の周回道路において、日吉ダムマラソン大会実行委員会主催の「第15回日吉ダムマラソン」が開催され、約2,700人が参加した。
ひよし夏まつり	日吉町観光協会	H24. 7. 22	日吉ダム下流広場において、日吉町観光協会主催の「ひよし夏まつり」が開催され、常用洪水吐きゲート室の一般開放、水の写真コンテスト優秀作品の展示等を行い、日吉ダム管理についてPRした。
天若湖アートプロジェクト	天若湖アートプロジェクト実行委員会	H24. 8. 4～5	天若湖アートプロジェクト実行委員会主催のもと、ダム建設で水没したかつての集落の夜景を再現し、水源地域住民への感謝と上下流市民交流、地域の活性化を目指したイベント「天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶」が開催され、実行委員会の一員として”あかり”の設営などの協力・協働を行った。
ひよし水の杜フェスタ	ひよし水の杜フェスタ実行委員会	H24. 10. 28	日吉ダム下流広場において、ひよし水の杜フェスタ実行委員会主催の「ひよし水の杜フェスタ」が開催され、日吉ダムでは、「ダム探検ツアー」と題した堤体内の施設見学会、パネル展示等を行った。
京北ふるさとまつり	京都市右京区京北町	H24. 11. 3	京北ふるさとまつり実行委員会主催の「京北ふるさとまつり」に参加し、日吉ダムのパネル展示と流木をチップ化した堆肥の配布を行い、ダム管理についてPRした。
来て見て体験 in 村野浄水場	大阪広域水道企業団	H24. 11. 4	京北ふるさとまつり実行委員会主催の「京北ふるさとまつり」に参加し、日吉ダムのパネル展示と流木をチップ化した堆肥の配布を行い、ダム管理についてPRした。
向日市まつり	向日市まつり実行委員会	H24. 11. 17～18	向日市まつり実行委員会主催の「向日市まつり」に、南丹市とともに参加し、パネル展示と流木をチップ化した堆肥の配布を行い、ダム管理についてPRした。



水の恵み見学ツアー (H24. 4. 21)



日吉ダムマラソン (H24. 4. 22)



ひよし夏まつり (H24. 7. 22)

図 7.5.3-2(1) 地元との交流及びイベント風景



天若湖アートプロジェクト (H24. 8. 4~5)



ひよし水の杜フェスタ (H24. 10. 28)



京北ふるさとまつり (H24. 11. 3)



来て見て体験 in 村野浄水場 (H24. 11. 4)



向日市まつり (H24. 11. 17~18)

図 7.5.3-2(2) 地元との交流及びイベント風景

表 7.5.3-3 主な地元との交流及びイベントの開催状況(平成 25 年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
第6回桂川ク リーン大作戦	桂川流域クリーンネットワ ーク	H25. 2. 17	桂川流域クリーンネットワーク主催のもと、地 域住民や地元の企業、自治体などが連携した大 規模な清掃活動「第6回桂川クリーン大作戦」 が桂川流域で行われ、日吉ダムからも参加し た。
第16回日吉ダ ムマラソン	日吉ダムマラソン大会実行 委員会	H25. 4. 21	貯水池周回道路及びダム天端をコースとした、 日吉ダムマラソン大会実行委員会主催の「第16 回日吉ダムマラソン」が開催され、約2,500人 が参加した。
水の恵み見学 ツアー	日吉ダム管理所	H25. 5. 18	日吉ダムの水を利用している地域住民（向日 市・長岡京市・大山崎町の住民）を対象に、水 の大切さや水道水の知識を深めることを目的 として、水源施設である日吉ダムと乙訓浄水場 の施設見学会「水の恵み見学ツアー」を開催し、 26名が参加した。
ひよし夏 まつり	日吉町観光協会	H25. 7. 14	日吉ダム下流広場において、日吉町観光協会主 催の地域行事「ひよし夏まつり」が開催され、 常用洪水吐きゲート室の一般公開を行うとと もに、流木・刈草を用いて製造した堆肥を配布 し、日吉ダムの役割等についてPRした。
天若湖アート プロジェクト	天若湖アートプロジェクト 実行委員会	H25. 8. 3～4	天若湖アートプロジェクト実行委員会主催の もと、ダム建設で水没したかつての集落の夜景 （あかり）を湖面に再現し、水源地域住民への 感謝と上下流市民交流、地域の活性化を目指 したイベント「天若湖アートプロジェクト あか りがつなぐ記憶」が開催され、実行委員会の 一員として”あかり”の設営などの協力・協働 を行った。
ひよし水の杜 フェスタ	ひよし水の杜フェスタ実行 委員会	H25. 10. 27	日吉ダム下流広場において、ひよし水の杜フェ スタ実行委員会主催の地域行事「ひよし水の杜 フェスタ」が開催され、「ダム探検ツアー」と 題した堤体内の施設見学会、パネル展示、流 木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、 日吉ダムの役割や台風18号洪水時の活躍等 についてPRした。
来て見て体験 i n 村野浄水 場	大阪広域水道企業団	H25. 11. 4	大阪広域水道企業団主催の「来て見て体験 i n 村野浄水場」にブース出展し、パネル展示と流 木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、 日吉ダムの役割や台風18号洪水時の活躍等 についてPRした。
向日市まつり	向日市まつり実行委員会	H25. 11. 16～17	向日市まつり実行委員会主催の「向日市まつ り」に南丹市とともに参加し、パネル展示と流 木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、 日吉ダムの役割や台風18号洪水時の活躍等 についてPRした。



日吉ダムマラソン (H25. 4. 21)



水の恵み見学ツアー (H25. 5. 18)



ひよし夏まつり (H25. 7. 14)

図 7.5.3-3(1) 地元との交流及びイベント風景



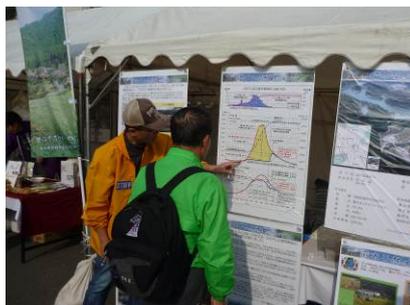
天若湖アートプロジェクト (H25. 8. 3~4)



ひよし水の杜フェスタ (H25. 10. 27)



来て見て体験 in 村野浄水場 (H25. 11. 4)



向日市まつり (H25. 11. 16~17)

図 7.5.3-3(2) 地元との交流及びイベント風景

表 7.5.3-4 主な地元との交流及びイベントの開催状況(平成 26 年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
京都丹波「女子力」アップツアー	写ガール隊、南丹広域振興局	H26. 2. 1	京都丹波・写ガール隊(京都府立大学生が中心)と南丹広域振興局が共同で、女性・若者の視点から「京都丹波の冬ならではの魅力や楽しみ方」を提案する企画ツアーとして、京都丹波「女子力アップ」ツアーを実施し、日吉ダムでは堤体内部などの施設案内を行った。
第7回桂川クリーン大作戦	桂川流域クリーンネットワーク	H26. 2. 23	桂川流域クリーンネットワーク主催のもと、地域住民や地元の企業、自治体などが連携した大規模な清掃活動「第7回桂川クリーン大作戦」が桂川流域で行われ、日吉ダムからも参加した。
婚活イベント	日吉町観光協会	H26. 3. 8	日吉ダム管理所において、日吉町観光協会主催の婚活イベント「出会いのマーチ」が開催され、21名が参加した。
地域(世木地区)報告会	南丹市日吉支所及び世木地域振興会	H26. 4. 13	南丹市日吉支所及び世木地域振興会の協力により、日吉ダム防災資料館において、地域(世木地区)報告会「台風18号における対応と地域活性化」を開催し、ダム建設に伴い移転された方等への報告及び意見交換を行った。
水の恵み見学ツアー	日吉ダム管理所	H26. 5. 24	日吉ダムの水を利用している地域住民(向日市・長岡京市・大山崎町の住民)を対象に、水の大切さや水道水の知識を深めることを目的として、水源施設である日吉ダムと乙訓浄水場の施設見学会「水の恵み見学ツアー」を開催し、39名が参加した。
土木施設見学会	土木学会関西支部	H26. 6. 7	土木学会関西支部主催の土木施設見学会が、応募による小中高生とその家族160人の参加により開催され、日吉ダムでは防災資料館でのビデオ上映や施設案内を行った。
ひよし夏まつり	日吉町観光協会	H26. 7. 20	日吉ダム下流広場において、日吉町観光協会主催の地域行事「ひよし夏まつり」が開催され、常用洪水吐きゲート室の一般公開を行うとともに、流木・刈草を用いて製造した堆肥を配布し、日吉ダムの役割等についてPRした。
京都水族館ワークショップ	京都水族館	H26. 10. 1～ 11. 21	京都水族館において「いのちと環境」をテーマにした体験プログラムが実施され、ワークショップ「かたちさがし」(様々な色や大きさの古木の中から好きな木片を選び、自分だけの形へと磨いていく)に日吉ダムの流木を提供した。また、京都水族館内において日吉ダムの紹介ポスターを掲示していただき、日吉ダムの役割についてPRした。
ひよし水の杜フェスタ	ひよし水の杜フェスタ実行委員会	H26. 10. 26	日吉ダム下流広場において、ひよし水の杜フェスタ実行委員会主催の地域行事「ひよし水の杜フェスタ」が開催され、「ダム探検ツアー」と題した堤体内の施設見学会、パネル展示、流木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割や洪水時の活躍等についてPRした。
来て見て体験 in 村野浄水場	大阪広域水道企業団	H26. 11. 2	大阪広域水道企業団主催の「来て見て体験 in 村野浄水場」が大阪府枚方市で開催され、パネル展示と流木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割や洪水時の活躍等についてPRした。
向日市まつり	向日市まつり実行委員会	H26. 11. 15～16	向日市まつり実行委員会主催の「向日市まつり」に南丹市とともに参加し、パネル展示と流木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割や洪水時の活躍等についてPRした。
天若湖アートプロジェクト	天若湖アートプロジェクト実行委員会	H26. 12. 20～21	天若湖アートプロジェクト実行委員会主催により、日吉ダム湖面を利用した「水上展覧会」、日吉ダム堤体内(インフォギャラリー)での「作品展示」が行われた。



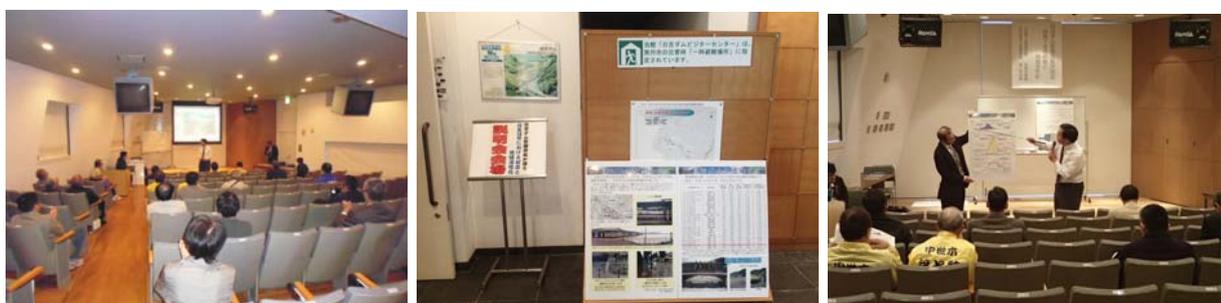
京都丹波「女子力」アップツアー (H26. 2. 1)



第7回桂川クリーン大作戦 (H26. 2. 23)



婚活イベント (H26. 3. 8)



地域（世木地区）報告会 (H26. 4. 13)



水の恵み見学ツアー (H26. 5. 24)

図 7.5.3-4(1) 地元との交流及びイベント風景



向日市まつり (H26. 11. 15～16)



天若湖アートプロジェクト (H26. 12. 20～21)

図 7.5.3-4(3) 地元との交流及びイベント風景

表 7.5.3-5 主な地元との交流及びイベントの開催状況(平成 27 年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
第8回桂川クリーン大作戦	桂川流域クリーンネットワーク	H27. 2. 22	桂川流域クリーンネットワーク主催のもと、地域住民や地元の企業、自治体などが連携した大規模な清掃活動「第7回桂川クリーン大作戦」が桂川流域で行われ、日吉ダムからも参加した。
天若湖アートプロジェクト	天若湖アートプロジェクト実行委員会	H27. 8. 8～9	天若湖アートプロジェクト実行委員会主催のもと、ダム建設で水没したかつての集落の夜景（あかり）を湖面に再現し、水源地域住民への感謝と上下流市民交流、地域の活性化を目指したイベント「天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶」が開催され、実行委員会の一員として”あかり”の設営などの協力・協働を行った。
ひよし水の杜フェスタ	ひよし水の杜フェスタ実行委員会	H27. 10. 25	日吉ダム下流広場において、ひよし水の杜フェスタ実行委員会主催の地域行事「ひよし水の杜フェスタ」が開催され、「ダム探検ツアー」と題した堤体内の施設見学会、パネル展示、流木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割や洪水時の活躍等についてPRした。
来て見て体験 in 村野浄水場	大阪広域水道企業団	H27. 11. 3	大阪広域水道企業団主催の「来て見て体験 in 村野浄水場」が大阪府枚方市で開催され、パネル展示と流木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割や洪水時の活躍等についてPRした。
向日市まつり	向日市まつり実行委員会	H27. 11. 14～15	向日市まつり実行委員会主催の「向日市まつり」に南丹市とともに参加し、パネル展示と流木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割や洪水時の活躍等についてPRした。
南丹デー	南丹市	H27. 11. 21	京都市ゼスト御池河原町広場及び御幸町広場で開催された南丹市によるイベント「南丹デー」において、パネル展示を行い来場者に日吉ダムの役割をPRした。



桂川クリーン大作戦 (H27. 2. 22)



天若湖アートプロジェクト (H27. 8. 8~9)



ひよし水の杜フェスタ (H27. 10. 25)



来て見て体験 in 村野浄水場 (H27. 11. 3)

図 7.5.3-5(1) 地元との交流及びイベント風景



向日市まつり (H27. 11. 14~15)



南丹デー (H27. 11. 21)

図 7.5.3-5(2) 地元との交流及びイベント風景

7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

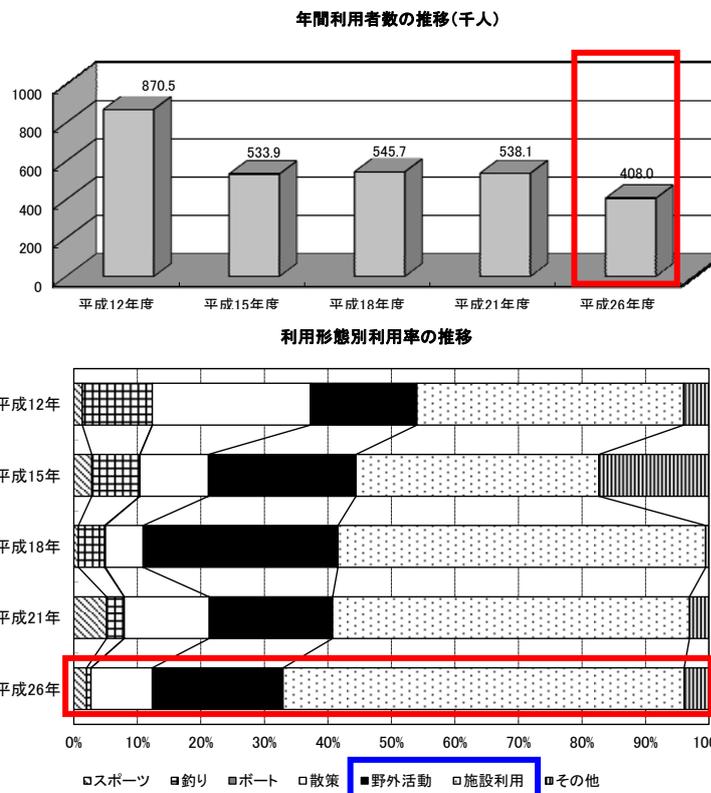
7.6.1 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

(1) 年間利用者数

日吉ダムでは、平成12年度、平成15年度、平成18年度、平成21年度、平成26年度に「河川水辺の国勢調査＜ダム湖利用実態調査＞」を実施している。

調査結果によると、平成12年の年間利用者数の推計値は約87万人（全国第2位[※]）、平成15年度は約53万人（全国第4位[※]）、平成18年度は約55万人（全国第3位[※]）、平成21年度は約54万人（全国第3位[※]）、平成26年度は約41万人（全国第3位[※]）となっている。（[※]は次頁参照）

利用形態については、「施設利用」が最も多く、「道の駅スプリングスひよし」や資料館等、周辺施設の充実が伺える。また、野外活動や散策なども多く、下流の公園一帯の利用者も多いと考えられる。年間利用者数の状況を図7.6.1-1示す。



ダム湖及び周辺の利用状況

年度	総数	利用形態区分							利用場所別		
		スポーツ	釣り	ボート	散策	野外活動	施設利用	その他	ダム	湖面	湖畔
平成3年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成6年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成9年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成12年度	870.5	11.6 (1.3%)	96.0 (11.0%)	0.0 (0.0%)	216.7 (24.9%)	145.9 (16.8%)	365.5 (42.0%)	34.8 (4.0%)	49.0 (5.6%)	102.2 (11.7%)	719.3 (82.6%)
平成15年度	533.9	15.2 (2.8%)	40.4 (7.6%)	<0.1 (0.0%)	57.5 (10.8%)	124.0 (23.2%)	204.1 (38.2%)	92.7 (17.4%)	17.9 (3.4%)	40.3 (7.6%)	475.6 (89.1%)
平成18年度	545.7	4.0 (0.7%)	22.4 (4.1%)	0.9 (0.2%)	32.3 (5.9%)	167.3 (30.7%)	315.8 (57.9%)	2.9 (0.5%)	7.3 (1.3%)	25.1 (4.6%)	513.3 (94.1%)
平成21年度	538.1	27.8 (5.2%)	14.8 (2.8%)	0.1 (0.0%)	72.0 (13.4%)	104.5 (19.4%)	302.5 (56.2%)	16.5 (3.1%)	22.0 (4.1%)	15.2 (2.8%)	500.9 (93.1%)
平成26年度	408.0	8.2 (2.0%)	2.8 (0.7%)	<0.1 (0.0%)	39.5 (9.7%)	83.9 (20.6%)	257.6 (63.1%)	15.9 (3.9%)	7.2 (1.8%)	11.4 (2.8%)	389.4 (95.4%)

(単位: 千人)

【出典：平成26年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕（ダム湖利用実態調査編）、平成28年2月」国土交通省河川局河川環境課】

図 7.6.1-1 日吉ダムの年間利用者数の状況

※参 考

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）

国土交通省及び水資源機構の管理中のダムを対象に、平成3年から3年に1回の頻度で、ダムの利用者や利用実態について調査を行っている。

なお、日吉ダムは平成10年に完成しているために、河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）は平成12年から実施している。

年間利用者数の多いダムを表7.6.1-1に示す。

表 7.6.1-1 年間利用者数の多いダム

年 度		1位	2位	3位	4位	5位	対象ダム数
平成12年度	ダム名 所在地 利用者数	御所ダム 岩手県 約89万人	日吉ダム 京都府 約87万人	金山ダム 北海道 約74万人	草木ダム 群馬県 約59万人	釜房ダム 宮城県 約46万人	91ダム
平成15年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約135万人	御所ダム 岩手県 約101万人	金山ダム 北海道 約73万人	日吉ダム 京都府 約53万人	三春ダム 福島県 約43万人	98ダム
平成18年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約157万人	御所ダム 岩手県 約96万人	日吉ダム 京都府 約55万人	三春ダム 福島県 約54万人	草木ダム 群馬県 約52万人	102ダム
平成21年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約133万人	御所ダム 岩手県 約100万人	日吉ダム 京都府 約54万人	三春ダム 福島県 約46万人	天ヶ瀬ダム 京都府 約43万人	106ダム
平成26年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約197万人	御所ダム 岩手県 約102万人	日吉ダム 京都府 約41万人	七ヶ宿ダム 宮城県 約38万人	草木ダム 群馬県 約38万人	114ダム

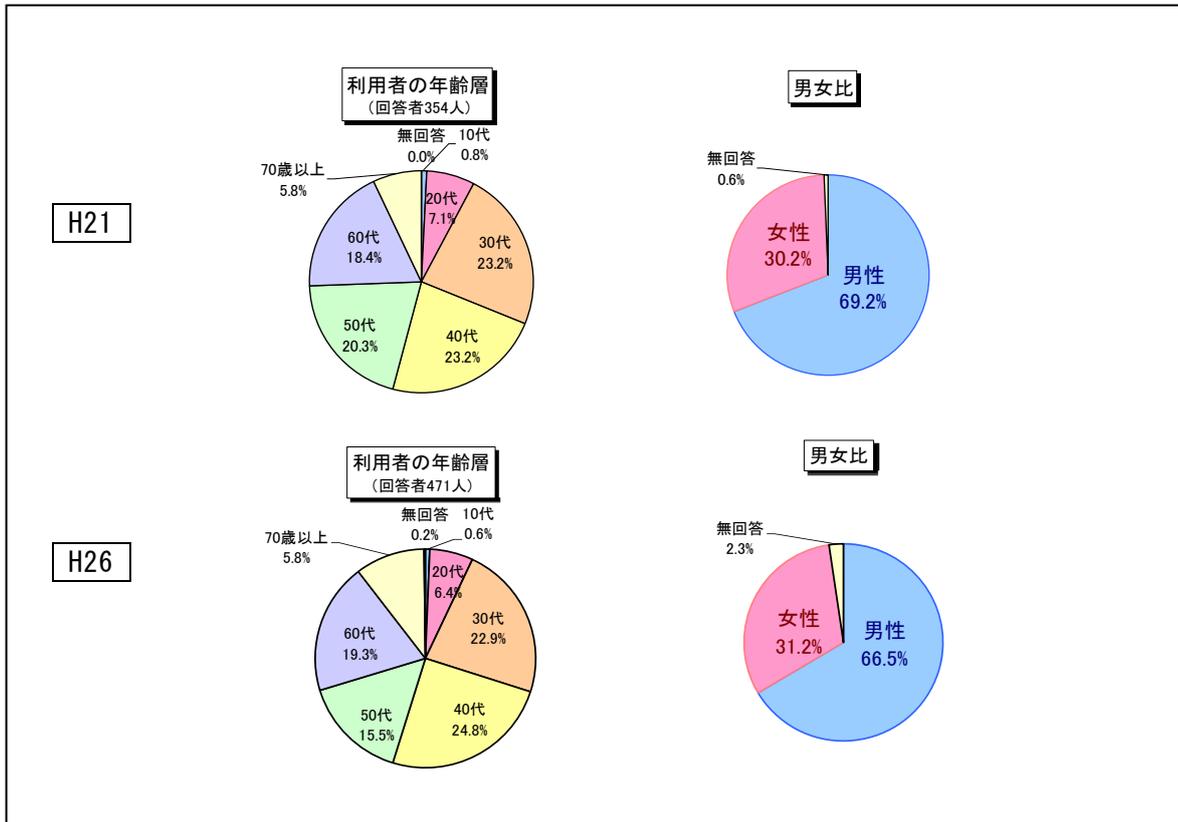
【出典：平成12年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）
 平成15年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）
 平成18年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）
 平成21年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）
 平成26年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）】

また、利用実態調査時に実施したアンケート調査結果のうち前回、前々回の結果から日吉ダムの利用の特徴を以降のとおり整理した。

(2) 利用者特性

利用者層は、30代、40代が多いが、50代、60代も多く、幅広い年齢層が利用している。また、男性の比率が高くなっているが、利用者の数を反映したものではなく、男性のほうがアンケート回答者が多かったためと考えられる。

利用者の属性を図 7.6.1-2 に示す。

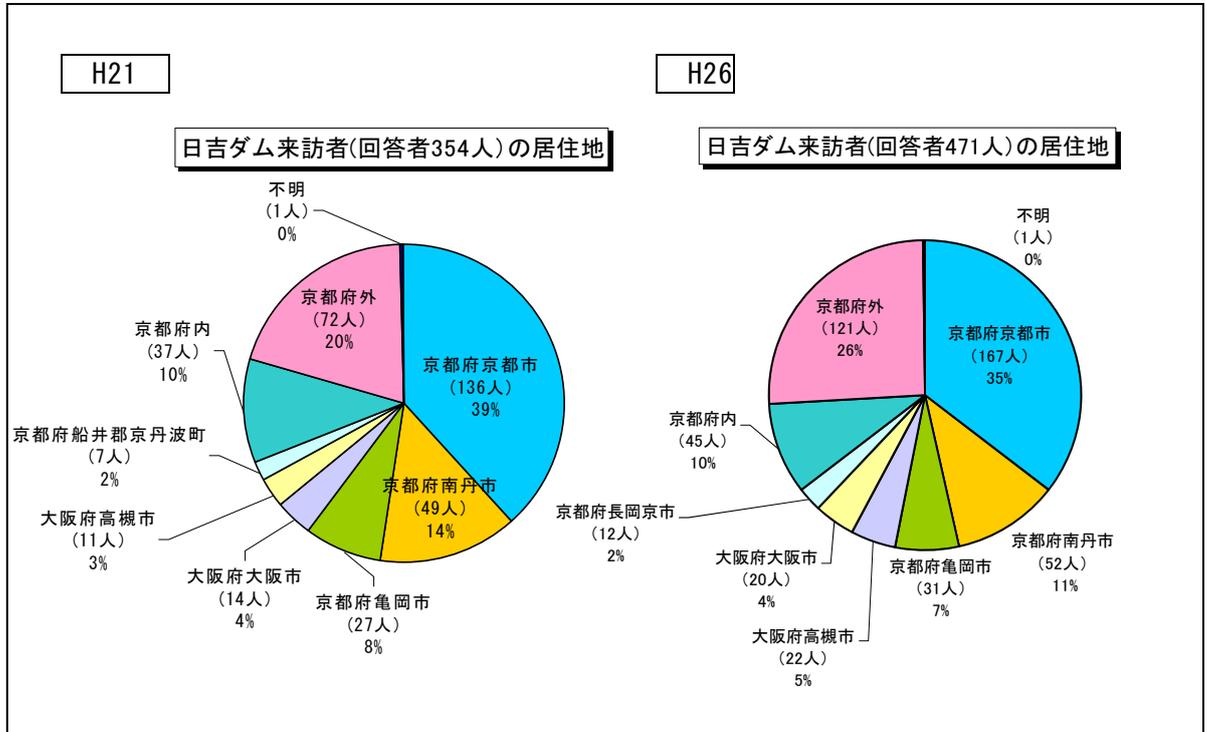


【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成 21, 26 年度」】

図 7.6.1-2 利用者の属性

利用者の居住地は、京都市が最も多く、次いで南丹市、亀岡市、大阪市、高槻市等が多かった。また、その他の京都府内及び京都府外と回答された来訪者も多く、多方面からの来訪があることが伺える。

来訪者の居住地を図 7.6.1-3 に示す。なお、図中の市町名は調査時のものである。



注) 明らかな書き間違いと思われるものは、現在の地名で集計した。

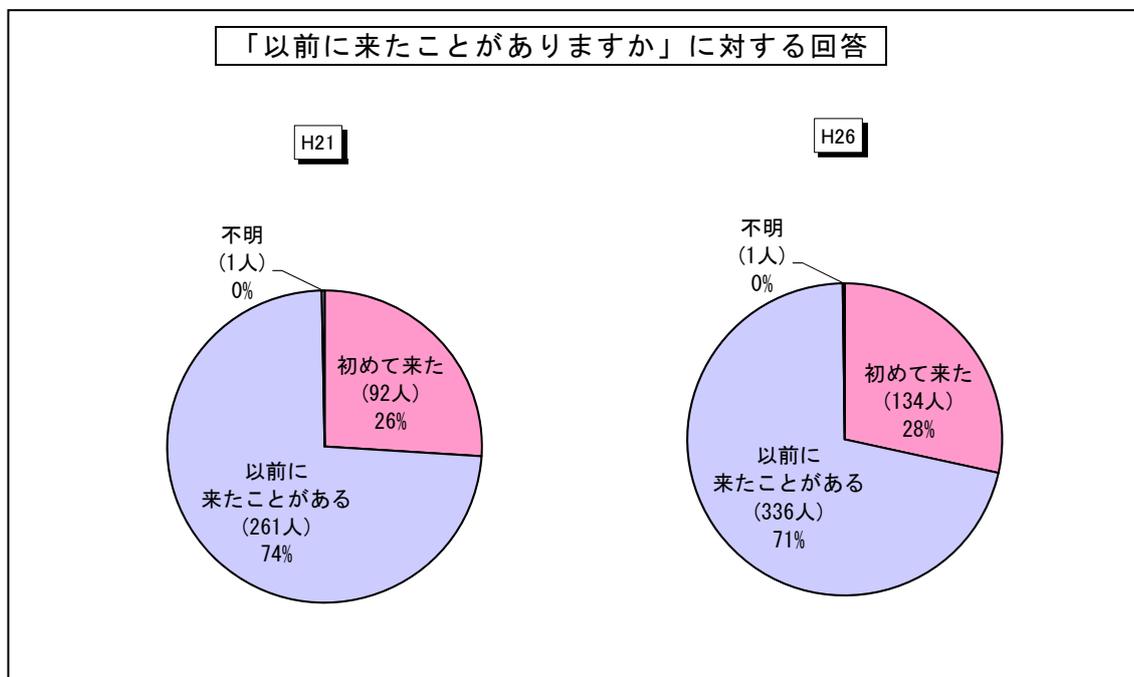
【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成 21, 26 年度」】

図 7.6.1-3 来訪者の居住地

「以前に来たことがありますか」に対する回答を見ると、リピーターが70%以上を占めている。

日吉ダムは繰り返し訪れたい魅力を持ったダムであると考えられる。

利用者の過去の来訪状況を図 7.6.1-4 に示す。



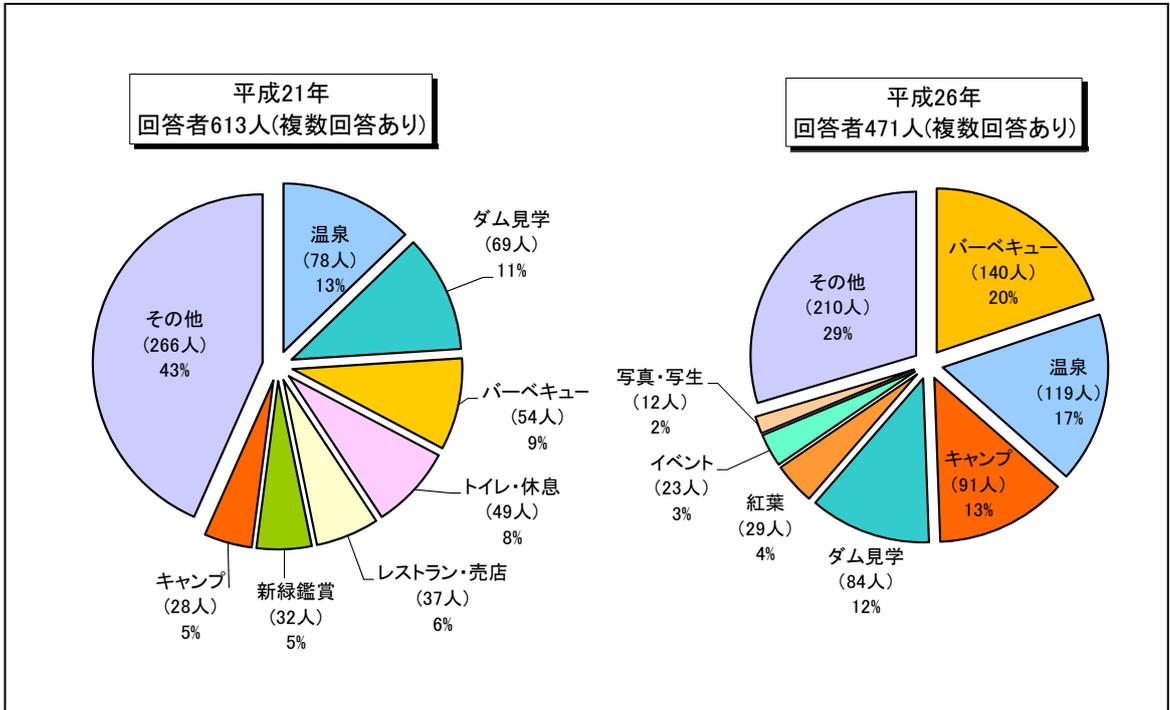
【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成 21, 26 年度」】

図 7.6.1-4 利用者の過去の来訪状況

(3) 利用状況

日吉ダムを訪れた主な目的は、バーベキュー、温泉、キャンプ、ダム見学等が多いが、平成26年にはバーベキュー、キャンプの比率が高くなっていることが特徴であった。道の駅 Springs ひよしのバーベキューガーデンがウェブサイトで紹介されたこと等が原因と考えられる。

利用目的を図 7.6.1-5 に示す。



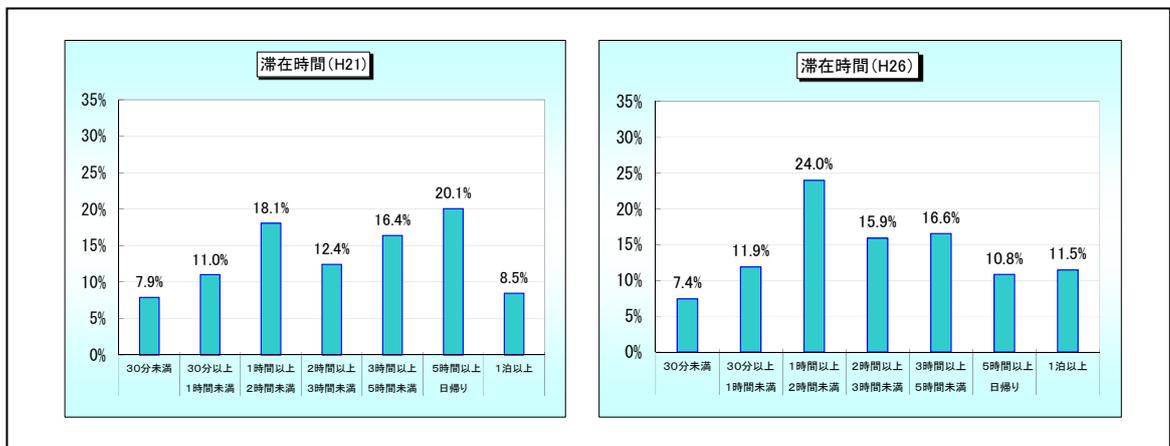
【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成 21, 26 年度」】

図 7.6.1-5 利用目的

滞在時間は、1時間以上～5時間以上（日帰り）での利用が多くなっている。

日吉ダムは立ち寄り程度の利用より、ダム若しくはダム周辺施設を目的として訪れ、長時間滞在する利用形態であることが伺える。

利用者の滞在時間を図 7.6.1-6 に示す。



【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成 21, 26 年度」】

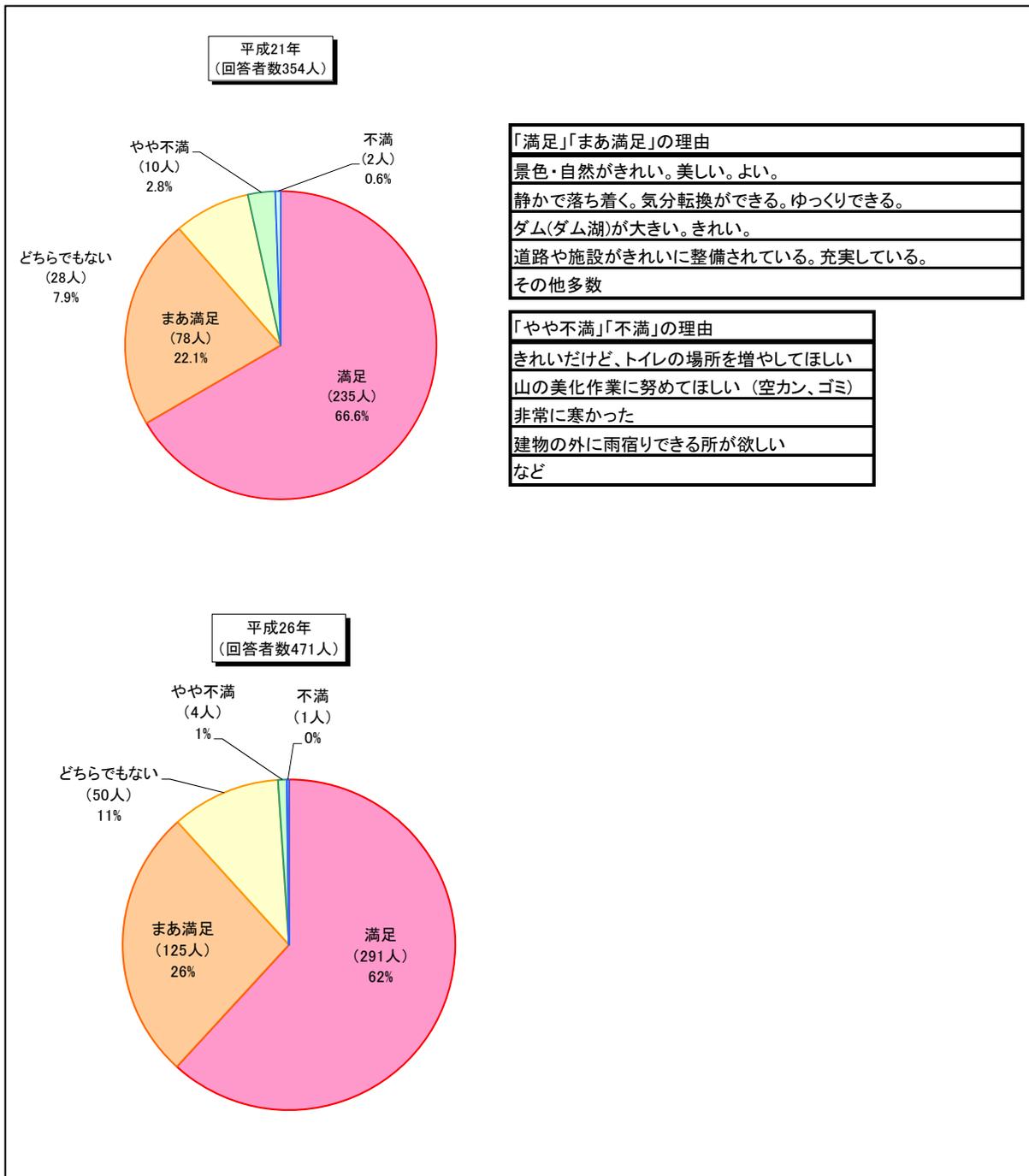
図 7.6.1-6 利用者の滞在時間

(4) 利用者の感想

日吉ダムを利用した感想を聞いた結果では、「満足」が60%程度、「まあ満足」を含めると90%程度を占めており、満足度が高くなっている。

一方で、「やや不満」や「不満」という感想もあり、その理由として天候によるもの、施設に対する要望やゴミが気になるなどの声があり、今後の維持管理に留意することが重要であると考えられる。

利用者の感想を図 7.6.1-7 に示す。



【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成 21, 26 年度」】

図 7.6.1-7 利用者の感想

7.7 まとめ

(1) 水源地域動態に関するまとめ

- 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の人口は、減少傾向にある。
- 日吉ダムは、「地域に開かれたダム」の第1号として、地域に密着した周辺施設が整備され、地元自治体も観光やレクリエーションの拠点と位置づけ、ダムを核とした地域活性化が図られている。
- 日吉ダム貯水池周辺には、「道の駅スプリングスひよし」をはじめとする余暇活動・学習・野外活動等の諸施設が整備されており、年間約50～60万人（重複利用者を含む）もの人々が訪れ利用されている。利用者数は、一時減少傾向にあったが、平成24年度以降増加している。これは、中核施設であるスプリングスひよしは、平成23年10月に京都府内15ヶ所目の「道の駅」として供用が開始され知名度が向上したこと、平成24年3月のリニューアルオープンにより集客力が向上したためと考えられる。また、これに伴い、府民の森等の周辺施設の利用者数も増加しており、平成27年度の利用者数はこれまでの最高を記録している。
- ダム湖利用実態調査では、全国の調査対象ダム約100ダム中、常に第3位前後の年間利用者数を記録しており、広域市民の交流・憩いの場となっている。また、幅広い年齢層が利用しており、利用者の満足度も高くなっている。
- ダム周辺では、「水源地域ビジョン」に基づき地域と連携した多くのイベントが開催されており、ダム管理者と周辺自治体等との良好な連携が図られている。

(2) 今後の方針

- 引き続き、ダム管理者として、ダム周辺の施設を活かした活動、イベントへの参加等に積極的に取り組むとともに、水源地域ビジョンにおいて策定された計画を、関係自治体・地元・NPOなどと共に推進していく。

7.8 文献資料リスト

表 7.8-1 「7. 水源地域動態」に使用した文献・資料リスト

NO.	文献・資料名	発行者	発行年月	備考
7-1	日吉ダムパンフレット	日吉ダム管理所		
7-2	平成 20 年度流域環境調査報告書	日吉ダム管理所	平成 21 年 3 月	
7-3	地域に開かれたダム整備計画書	京都府日吉町・京北町・八木町	平成 7 年 2 月	
7-4	平成 18 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 19 年 2 月	
7-5	平成 21 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 22 年 2 月	
7-6	平成 26 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 28 年 2 月	
7-7	日吉ダム水源地域ビジョン	日吉ダム水源地域ビジョン協議会	平成 14 年 3 月	
7-8	南丹市ホームページ	南丹市		
7-9	国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ			

表 7.8-2 「7. 水源地域動態」に使用したデータ

NO.	データ名	データ提供者 または出典	データ発行年月	備考
7-1	国勢調査結果（人口）			
7-2	平成 18 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 19 年 2 月	
7-3	平成 21 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 22 年 2 月	
7-4	平成 26 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 28 年 2 月	
7-54	周辺施設の入込み数	日吉ダム管理所		
7-5	平成 27 年 日吉ダム年次報告書	日吉ダム管理所	平成 28 年 3 月	
7-6	国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ			